

目次

第1章 基本情報

1. 計画策定に至る経緯	03
2. 本計画の位置づけ	04
3. 世界遺産に関する施策の状況	06
4. 南島原市の概要	07
5. 観光動向等の整理	09

第2章 南島原市フィールドミュージアムの概要

1. 南島原市フィールドミュージアムとは	25
2. 南島原市フィールドミュージアムを構築する上での課題等	26
3. 南島原市フィールドミュージアムが目指す姿	27
4. 南島原市フィールドミュージアム構築イメージ	28

第3章 文化観光拠点施設整備構想

1. 文化観光拠点施設の位置づけと役割	30
2. 文化観光拠点施設に必要となる機能	31
3. 文化観光拠点施設整備構想	32

第4章 原城跡等展示基本計画

1. 既存施設展示の課題の抽出	47
2. 既存施設展示の課題	48
3. 展示基本方針	49
4. 展示構成	50

第5章 南島原市フィールドミュージアム基本計画

1. 南島原市フィールドミュージアム基本計画の基本理念及び基本方針	61
2. 事業計画	67
3. 事業スケジュール	68

第1章

基本情報

1. 計画策定に至る経緯

南島原市内には、原城跡のほか、日野江城跡や吉利支丹墓碑という国指定史跡、南蛮船来航の地、セミナリヨ跡、コレジヨ跡、市内に数多く点在するキリシタン墓碑など、キリシタンに関わる多くの文化資源が存在しており、周辺の雲仙市や島原市、天草市などにも関連する文化資源が存在している。

それら多くの文化資源の中でも原城跡は、キリスト教禁教による宣教師不在の中、長崎や天草地方のそれぞれの地域で、独自の形で信仰を続けた潜伏キリシタンの伝統のあかしとなる遺産群として平成30年7月に世界遺産に登録された「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産のひとつとなっている。

原城跡が舞台となった「島原・天草一揆」は、日本史上最大の一揆であり、江戸幕府に大きな衝撃を与え、幕府は海禁体制や禁教政策を確立させ、それをきっかけに長崎や天草地方のキリシタンたちは潜伏しながら、自分たちだけで信仰を伝えていくことになった。

史跡原城跡は、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」のストーリーの出発点となる文化資源であり、南島原市に数多く存在しているキリシタン関連の史跡は、なぜ一揆がこの地で起こったのかなど、来訪者がいくつものストーリーを見いだせるものとなっている。

現在、南島原市では、人口減少・少子高齢化と地域活力の低下などの課題に対応し、貴重な文化資源や多くの観光交流資源を活かしたまちづくりを進めているところである。

その中で「南島原市フィールドミュージアム基本計画（以下「本計画」という。）」は、南島原市のキリシタンに関わる文化資源が持つストーリーを観光に活かし、食や体験などのあらゆる観光資源と連動した効果的な観光振興を図るための施策の一つとして策定するものである。

2. 本計画の位置づけ

本計画は、南島原市の市民と行政がともに進めるまちづくりの指針である「第2期南島原市総合計画」を上位計画としている。また関連する計画として「南島原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」、「史跡原城跡保存活用計画」及び長崎県による「長崎県文化観光推進地域計画」がある。

「第2期南島原市総合計画」では、基本構想における基本理念を「一人ひとりの”しあわせ”のためにみんなで進めるまちづくり」とし、まちの将来像を『これからも 住み続けたい 住んでみたい まちなみしまばら』と定め、それを実現するために「自然環境」「郷土文化」「産業経済」「健康福祉」「人づくり」「安全安心」「基盤整備」「協働行政」という8つのまちづくりの柱で取り組みを進めることとしている。

特に、郷土文化では、「歴史・文化財を活かしたまちづくり」として、文化財の保護と保存整備、活用と普及の取組とともに、資料館、物産館、観光案内所等の機能を持つ世界遺産関連施設（ガイダンス施設）の整備を進めるとされている。

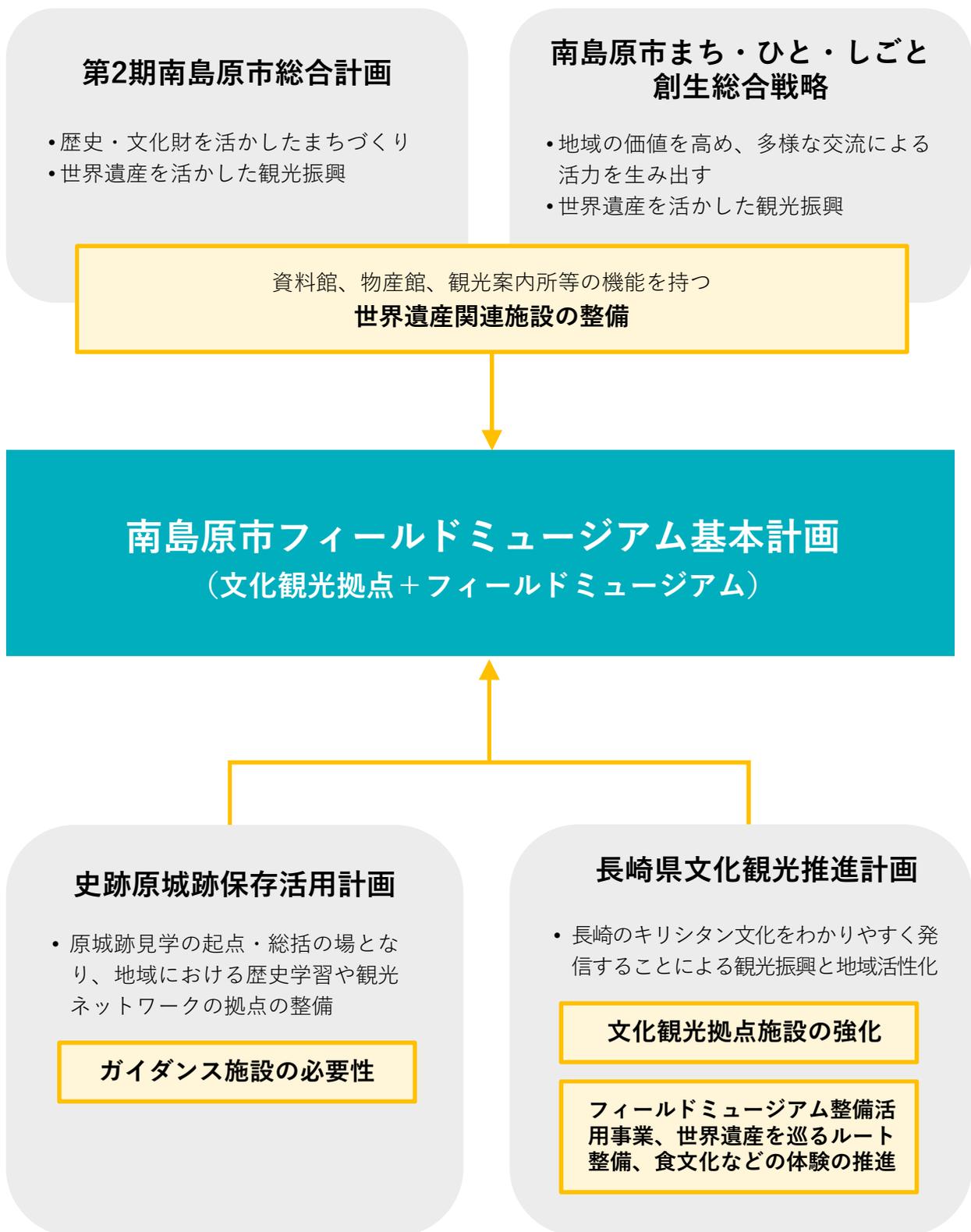
また、産業経済では、「観光振興」としてプロモーションの強化や、世界遺産を活用した観光プログラムの開発や天草市をはじめとする周辺自治体等との広域連携に取り組むこととされている。

「南島原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、「第2期南島原市総合計画」を受けて「地域の価値を高め、多様な交流による活力を生み出す」ことを基本目標に掲げ、世界遺産を活かした観光振興を通じて、交流人口を拡大し、市内消費や観光需要の増加を地場産業の振興、企業・創業、企業誘致につなげることであり、その取り組みの一つとして世界遺産関連施設（ガイダンス施設）の整備が位置付けられている。

文化財分野における関連計画である「史跡原城跡保存活用計画」では、国史跡かつ世界遺産の構成資産である原城跡について今後の保存活用の方向性を示し、その中で原城跡見学の起点・総括の場となり、地域における歴史学習や観光ネットワークの拠点として機能する「ガイダンス施設」の必要性が示されている。このガイダンス施設は、現在策定中の「原城跡整備基本計画」においても、世界遺産関連施設として位置付けることとなっている。

令和3年度に文化観光推進法に基づく計画認定を受けた「長崎県文化観光推進計画」では、国内外への強い発信力を有する長崎のキリシタン文化をわかりやすく発信することにより、観光振興と地域活性化を図ることを目的として、「南島原市有馬キリシタン遺産記念館」を県南地域の中核となる文化観光拠点施設に位置付け、南島原市における「フィールドミュージアム整備活用事業」や島原鉄道の廃線跡地を活用した「世界遺産を自転車で巡るルート整備」、キリシタン文化と関わりのある「食文化体験」などに取り組むこととしている。

本計画は、これら上位計画、関連計画における「世界遺産関連施設」「ガイダンス施設」及び「文化観光拠点施設」の整備・充実を行うものとして位置づけられる。さらに、当該施設を拠点とする市内外の文化資源や観光資源の連携により南島原市の観光振興と地域活性化を図るものである。



3. 世界遺産に関する施策の状況

本市では、これまでに原城跡を含む12の構成資産からなる「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界遺産登録に向けた施策の一環として世界遺産関連施設及びガイダンス施設整備に関する検討を行ってきた。

検討の経緯及び概要は次の通りである。

南島原市世界遺産市民協働会議からの要望（平成28年7月）

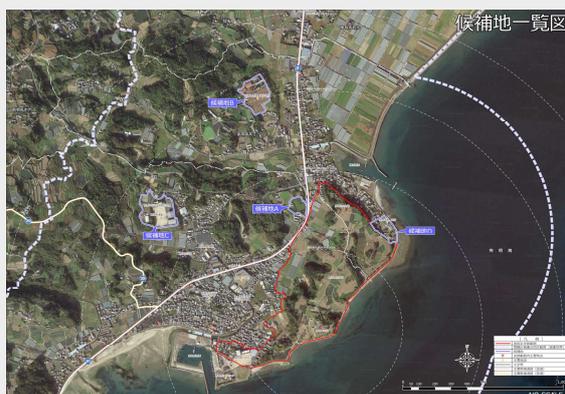
- 南島原市世界遺産市民協働会議（市内32団体代表者）から、世界遺産関連施設整備に関する要望書が提出された。

【要望内容】

- 原城跡から出土した遺骨を納める納骨堂の整備。
- 慰霊のシンボルとなる、慰霊碑の整備。
- 駐車場、トイレの整備。
- 特産品や土産物を販売できる物産館の整備。
- 市民や観光客がくつろげる、憩いの場の整備。
- 原城跡、日野江城跡、有馬キリシタン遺産記念館を中心とした、観光の拠点となる案内所の整備。

世界遺産関連施設整備基本計画（平成30年3月）

- 物産館を中心とした世界遺産関連施設の整備基本計画を策定した。
- 整備候補地は、史跡原城跡に近接し、交通結節点からもアクセスしやすい場所に定めた。



史跡原城跡 保存活用基本計画（令和3年3月）

- 現在の有馬キリシタン遺産記念館の位置が、原城跡との周遊性や連動性を欠くことから、現在の位置から移設し、公開拠点として新たなガイダンス施設整備を推進する方針を示した。
- 原城跡、ガイダンス施設を南島原市の観光ネットワークの中核として位置づける方針を示した。

4. 南島原市の概要

(1) 歴史・自然

本市は、長崎県の南部、島原半島の南東部にあって、北部は島原市、西部は雲仙市と接し、有明海を挟んで熊本県天草地域と隣り合った位置にある。

気候は温暖で、適度な降雨量と日照時間に恵まれた自然豊かな食の産地であり、また貴重な文化資源や数多くの観光・交流資源を有している。

歴史資源では、日本初のヨーロッパ式中等教育機関「セミナリヨ」をはじめ、島原・天草一揆の舞台となった「原城跡」や「日野江城跡」等、西洋との交流やキリスト教にまつわる歴史資源が数多く残されている。

また、観光資源では、南島原市の交流資源として定着している「農林漁業体験民泊」、島原半島ジオパークや九州オルレ「南島原コース」等の自然環境を活かした観光資源がある。

(2) 交通

本市へのアクセスは、島原半島西岸の国道57号、諫早方面から島原半島東岸の国道251号及び島原半島中央部を縦断する国道389号がある。またフェリーや高速船などの海上交通の航路が熊本港や熊本県天草市鬼池港と島原半島を結んでいる。

公共交通はかつて島原鉄道があったが平成20年3月末で廃止となり、現在ではバスのみとなっている。

原城跡へのアクセスは島鉄バス「原城前」バス停が最寄りとなっている。

南島原市の位置



主要経由地から原城跡までの所要時間

経由地	経路・交通手段	経由地からの所要時間	備考
長崎空港	バス	180分	
	自動車※国道251号経由（90分）、国道389号経由（120分）	90分～120分	
諫早IC	自動車※国道57号経由（70分）、雲仙グリーンロード経由（90分）	70分～90分	
JR諫早駅	鉄道（50分）諫早駅～島原駅⇒バス（70分）	120分	
熊本駅	フェリー（30分/60分）⇒島原駅⇒自動車（40分）/バス（60分）	70分/120分	
長州港	フェリー（45分）⇒多比良港⇒自動車（60分）/バス（105分）	105分/150分	
三池港	高速艇（45分）⇒島原港⇒自動車（40分）/バス（60分）	85分/105分	西鉄と連絡
鬼池港	フェリー（30分）⇒口之津港⇒自動車/バス（15分）	45分	

(3) 人口の動向

市内全域で人口減少が進み、平成27年（2015）の国勢調査では、平成22年（2010）と比較して3,823人減少し、46,535人となった。また、15歳未満の割合が12.6%、65歳以上の割合が36.2%を占めており、少子高齢化が進んでいる。

また、転出数が転入数を上回っており、毎年为社会減が400人前後で推移し、特に、進学や就職を控える高校・大学卒業者など、20歳前後の減少が著しい状況となっている。

人口減少に対応すべく、まちを持続していくための、新たな産業や雇用の創出、六次産業化の推進による産業間の連携、それらに携わる人材の育成が重要といえる。

(4) 観光の動向

観光客数は、平成25年（2013）に1,738,497人に達し、以降170万人台を維持している。

特に、農林漁業体験民泊の増加が著しく、修学旅行による利用のほか、海外からの利用も徐々に増加しており、市民によるガイド組織も充実している。受入家庭は170軒を超え、受入人数も平成26年度に当初目標の1万人を超えた。

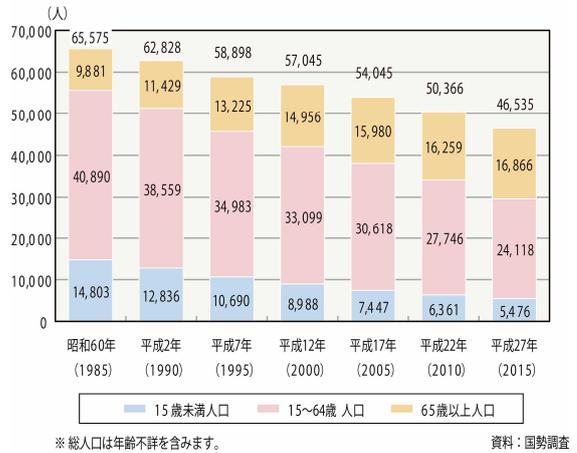
(5) 産業の動向

本市の産業は、農林水産業や「島原手延そうめん」等の食品製造業が中心となっているが現在、担い手の不足、労働力の確保が課題となっている。

本市で生産される「島原手延そうめん」は全国の手延べそうめんにおけるシェア30%を誇り、本市の基幹産業となっている。現在、本市では知名度の向上やブランドづくりのためのプロモーションやPR活動に取り組んでいる一方、市内で販売している場所が少ないなどの課題もある。

一方、IoT産業や6次産業化など、これまでにない新たな産業が市内各所で芽生えつつあり、本市では地方版IoT推進ラボの認定地域として、南島原市IoT推進ラボの活動支援やIoTの実証がしやすい環境づくりに取り組んでいる。

南島原市の人口推移



5. 観光動向等の整理

文化観光拠点施設及び南島原市フィールドミュージアムの方向性を検討するにあたり、観光動向をはじめ、来訪者動向、観光資源の状況、先進事例について整理した。

(1) 観光動向の整理

【要点】

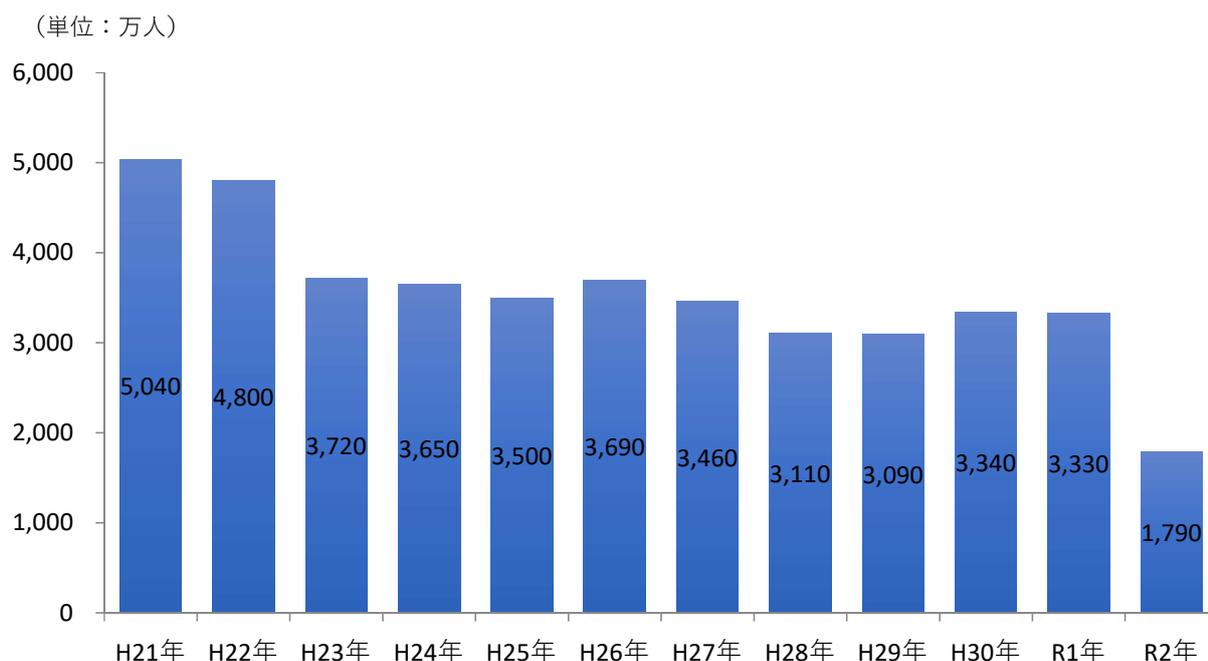
- 余暇における博物館需要は減少傾向にあり、博物館単独での経済効果はあまり期待できない。
- 若年層においては歴史資源や世界遺産、女性においては地域の食文化への興味関心が伺える。
- 訪日外国人の博物館の参加率は、欧米で高いもののアジア諸国では低く、市場が小さい。
- 南島原市は地元、近隣が多く、県外客の獲得、観光消費額の拡大が課題。

① 国内レジャーの動向

減少している博物館の参加人口

レジャー白書によると、人口減少や少子高齢化の進展に伴い、博物館（動植物園、水族館含む）の参加人口は年々減少している。参加人口は平成30年から令和元年にかけて回復基調であったものの、R2年は新型コロナウイルスの影響により、外出や移動を伴う活動が大幅に減少している。

動植物園、水族館、博物館の参加人口の推移



資料：レジャー白書

活動回数・費用が少ない博物館

余暇活動の参加・消費の実態をみると、博物館（動植物園、水族館含む）の参加人口は国内観光旅行について多いものの、年間平均活動回数は3回程度と少ない。また、一回当たり費用が3,000円程度であり、バーベキューや登山よりも消費が少ない。

予科活動への参加・消費の実態

項目	参加人口 (万人)	年間平均 活動回数 (回)	1回当たり 費用 (円)
国内観光旅行	5,400	3.9	28,050
動植物園、水族館、博物館	3,330	3.4	3,090
ウォーキング	3,220	49.3	90
温浴施設（健康ランド等）	2,940	8.5	1,460
ドライブ	1,900	10.9	1,940
バーベキュー	1,890	2.7	5,370
ピクニック、ハイキング、野外散歩	1,720	10.5	1,620
催し物、博覧会	1,460	4.3	2,470
ボランティア活動	900	9.0	830
登山	650	5.0	5,720
オートキャンプ	280	4.4	12,660

資料：レジャー白書（2019）

活動回数・費用が少ない歴史的遺産や食資源への関心

性別年齢別の旅行テーマの潜在需要をみると、「癒やしの旅」はどの性別や世代でも需要がある。一方で、「歴史のある街並みを訪れる旅」の各年代で経験率は高いものの、今後の希望率が低いため、高齢者ほどマイナス率が高い。「世界遺産」や「歴史的遺産」については、経験率が低い若年層で高くなっている。「博物館や美術館を訪問する旅」は10代女性で高いものの、その他の年代の需要は総じて低い。10代女子では、ロケ地訪問や地域の食文化を楽しむ旅への需要が高い。

旅行テーマ別潜在需要（性別・年齢別）

	全体	男性計	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	女性計	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
(回答者数)	3,325	1,623	118	196	265	303	252	307	182	1,702	112	217	260	310	264	298	241
癒やしの旅	9.6	7.6	13.6	6.1	5.7	16.5	11.1	-1.0	2.7	11.4	27.7	16.6	11.1	15.5	14.4	1.3	3.8
病気回復や健康の維持・向上のための旅	7.7	6.4	6.8	4.0	7.9	10.3	8.8	3.6	1.6	9.1	14.3	12.9	10.0	11.3	9.8	4.7	3.7
大自然の魅力を味わう旅	7.2	4.7	8.4	3.0	5.3	12.5	5.9	1.3	-6.0	9.7	20.6	12.9	14.6	14.2	13.2	2.7	-4.2
アウトドア体験を楽しむ旅	-9.8	-9.5	1.7	-2.1	0.0	-3.9	-15.4	-19.2	-22.6	-10.1	-3.6	-3.2	-1.9	-7.8	-25.8	-14.4	-9.1
農業体験や潜在を楽しむ旅	1.7	0.9	-1.7	1.5	0.0	1.3	1.2	1.3	0.6	2.6	3.5	4.7	3.1	4.5	2.3	1.3	-0.4
漁業体験や潜在を楽しむ旅	3.0	3.3	6.0	0.0	3.4	5.0	3.6	2.9	2.2	2.7	3.6	3.6	3.1	4.6	2.3	1.7	0.8
ものづくりの現場を体験する旅	1.6	2.2	1.7	-1.5	6.0	4.3	3.2	2.6	-4.9	0.9	0.9	6.9	9.3	3.5	-3.4	-5.7	-3.8
歴史的遺産を訪問する旅	3.8	5.0	6.0	9.7	4.9	6.0	7.9	2.6	-2.2	2.6	5.4	3.2	5.8	3.8	1.1	1.0	-0.4
歴史のある街並みを訪れる旅	-4.1	-4.2	-1.7	-0.5	3.8	3.6	-4.0	-13.1	-22.8	-4.0	5.4	4.2	3.4	3.2	-9.5	-13.7	-15.4
世界遺産を訪問する旅	10.7	9.4	11.0	8.2	11.3	11.6	12.0	8.5	1.7	11.8	25.0	15.7	11.9	18.4	11.8	8.1	-2.1
スポーツ活動を楽しむ旅	-7.1	-7.7	5.9	2.0	1.5	-7.6	-11.9	-16.9	-19.2	-6.4	0.9	3.2	-1.9	-7.8	-12.5	-9.4	-11.2
スポーツ鑑賞を楽しむ旅	1.2	1.9	10.2	1.1	3.4	2.0	0.4	-0.3	1.1	0.6	5.3	6.5	1.6	0.3	-2.3	-1.0	-2.9
ロケ地を訪問する旅	2.7	2.0	7.6	2.5	1.9	4.0	2.7	-0.4	-3.3	3.5	19.6	7.4	2.3	4.9	4.6	-1.0	-3.7
祭りや伝統行事を鑑賞する旅	2.2	2.0	4.2	4.6	4.9	4.0	-0.8	0.6	-4.4	2.6	8.0	9.7	5.0	6.1	3.0	-4.7	-5.0
博物館や美術館を訪問する旅	-2.3	-2.5	0.0	1.6	2.7	1.3	-2.7	-8.1	-12.1	-2.1	10.7	2.8	0.4	2.3	-3.4	-7.7	-12.4
創作体験をする旅	3.8	3.0	3.4	-0.5	3.8	5.2	3.9	2.0	1.7	4.6	8.0	5.1	5.4	10.0	5.6	-1.0	0.8
地域の食文化を楽しむ旅	5.5	4.3	5.1	0.0	3.1	8.3	5.6	7.1	-3.3	6.7	18.8	11.1	7.7	6.5	3.4	1.7	5.8
子どもや孫と交流するプログラム参加	2.5	1.3	2.6	3.1	3.4	2.6	-0.4	1.0	-3.3	3.5	6.2	4.7	8.9	4.9	1.6	0.7	-0.4
季節の花を訪ねる旅	-0.5	-0.2	3.4	2.5	3.8	1.9	0.0	-2.6	-11.0	-0.8	11.6	5.1	1.5	2.2	3.1	-7.7	-13.6
ボランティア活動に参加する旅	1.9	1.1	2.6	1.0	0.8	1.0	2.0	1.9	-1.7	2.6	5.3	2.7	2.3	4.5	2.7	0.4	2.1
自分の関心のあるテーマを実現する旅	4.5	4.3	5.9	3.1	4.1	3.9	10.3	1.3	2.2	4.6	13.4	5.6	2.7	4.2	8.0	3.7	-0.4

資料：レジャー白書（2019）

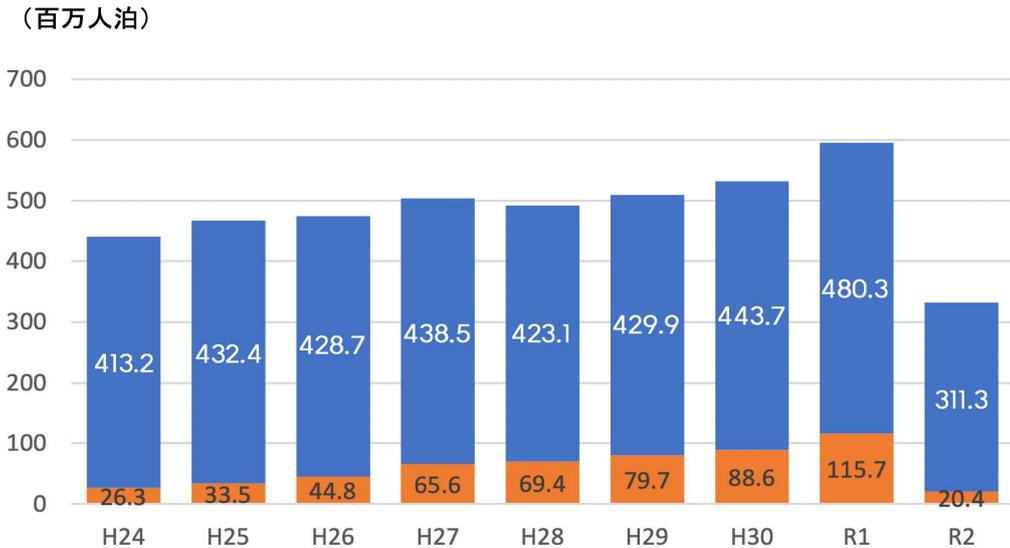
※潜在需要は旅行テーマ（性別・年齢別）の経験率から希望率を引いた値

② 国内の観光動向

新型コロナの影響が大きい外国人宿泊者

宿泊旅行統計調査による延べ宿泊者数は、インバウンドの拡大もあり令和元年には約6億人泊まで増加したものの、新型コロナウイルスの影響により、令和2年は3.3億人泊とおおよそ半減している。特に外国人の宿泊が減少しており、令和2年は元年の2割以下まで落ち込んでいる。

延べ宿泊者数の推移



資料：宿泊旅行統計調査（観光庁） ■外国人 ■日本人

博物館への参加率が低いアジア諸国

訪日外国人の消費動向をみると、日本食や自然・景勝地観光は地域・国籍を問わず参加率が高い。一方博物館（美術館含む）への参加率は豪州・アメリカ・欧州で高いものの、アジア諸国では低い。訪日外国人の8割以上はアジア諸国であるため、インバウンドにおける博物館のマーケットは小さい。

訪日旅行での参加率（国籍・地域別）

	韓国	中国	台湾	香港	豪州	アメリカ	イギリス	フランス
日本食を食べること	90.7	94.1	91.8	92.2	97.5	95.9	94.4	98.5
日本の酒を飲むこと(日本酒、焼酎など)	46.5	28.2	24.6	23	60.1	56.8	62.8	47.5
旅館に宿泊	25.1	65	59.6	50.6	32.9	31.9	40.6	45.7
温泉入浴	36.8	60.4	38.2	38.7	39.1	25.6	34.9	40.3
自然・景勝地観光	47	76.4	70.2	64.3	74.2	75.2	75.3	72.6
繁華街の街歩き	58	71.7	66.3	63.8	70.8	65.7	75.4	68.1
ショッピング	70.2	87.9	85.3	84.6	71.5	66.2	71.3	69.8
美術館・博物館	8.3	12.4	15.9	12.5	42.8	43.3	60.3	43.7
ゴルフ	1.1	0.7	0.9	0.9	1.2	0.8	0.4	0
テーマパーク	11.1	22.9	30.3	23.6	24.6	12.6	16.6	12.7
スキー・スノーボード	0.7	3.5	3.6	4.2	24.3	3.1	4.8	1.9
舞台鑑賞(歌舞伎・演劇など)	2.7	3.3	4.2	2.7	10.6	12.3	14.7	6.9
スポーツ観戦(相撲、サッカーなど)	1.4	0.3	1.7	1.3	9.4	7.3	10.2	5.3
自然体験ツアー・農漁村体験	2.1	4.9	9.1	8.8	14.2	14	15.7	10.7
四季の体感(花見・紅葉など)	2.8	11.1	14.4	14.9	19.1	13.4	18.8	11
映画・アニメ縁の地を訪問	3.3	4.2	3.4	2.9	9.6	12.3	11.3	12.4
日本の歴史・伝統文化体験	11.8	15.7	22	17.5	55.8	61.2	61.1	58.8
日本の現代文化体験(ファッション、アニメなど)	7.6	7.8	12	11.3	38.9	39.3	49.7	47.7
治療・健診	0.3	0.3	0.6	0.9	1.1	1	1.3	2.3

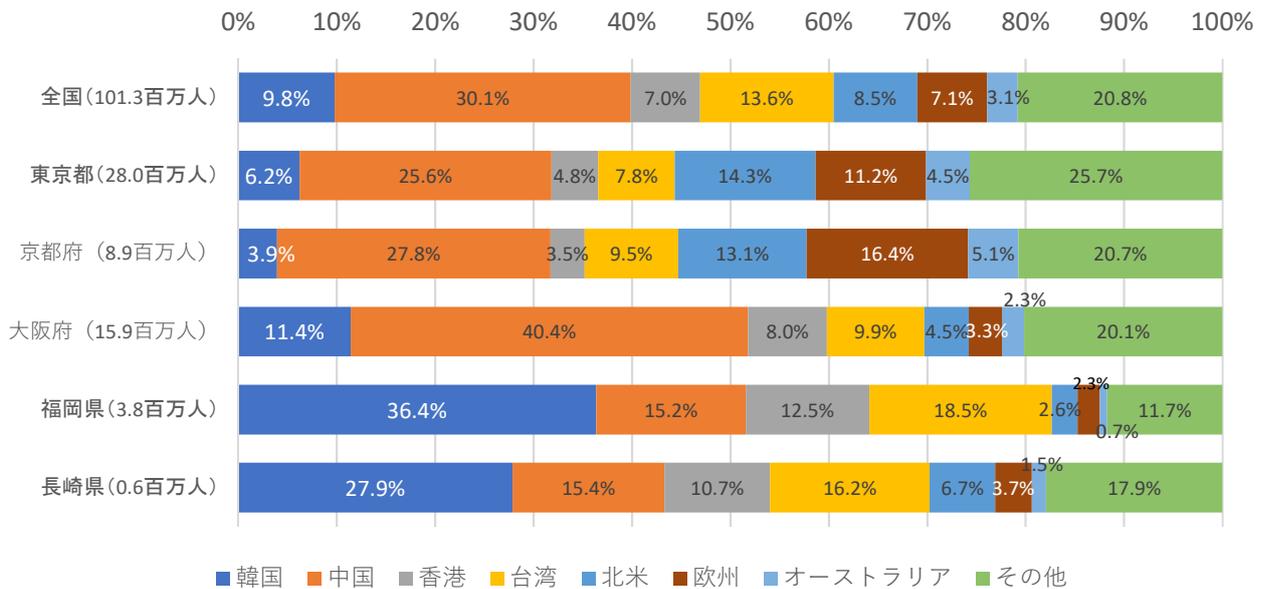
資料：訪日外国人消費動向調査（2014,観光庁）

③ 長崎県の観光動向

韓国・中国・台湾から訪れる長崎県

長崎県の外国人の宿泊者数は全国の0.6%であり、まだまだ少ない。福岡県と比べても6分の1の規模である。宿泊者の国籍別構成比を見ると、韓国が27.9%と最も多く、台湾16.2%、中国15.4%であり、近隣諸国からの来訪が多くなっている。

主要都府県の外国人宿泊者構成比（国籍別）



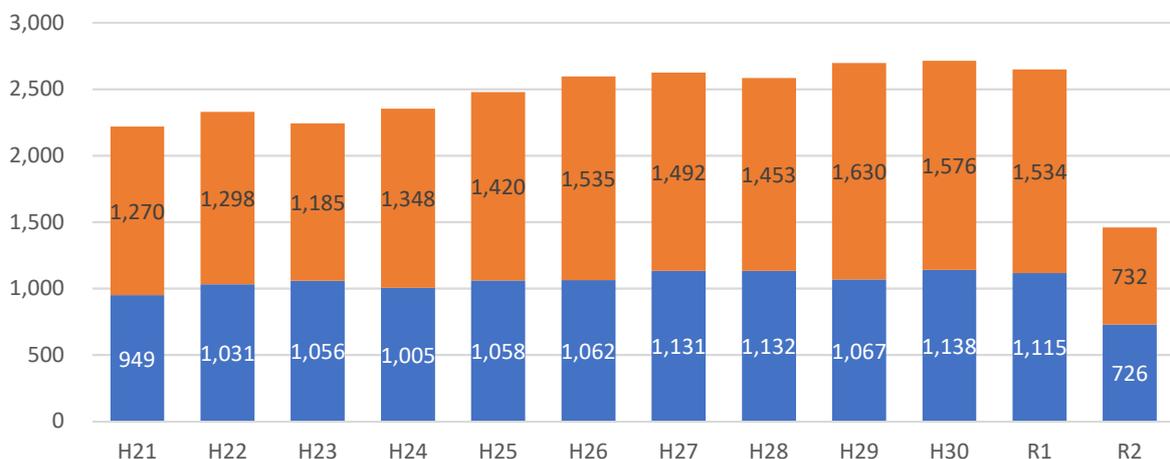
資料：宿泊旅行統計調査（2019,観光庁）

新型コロナで落ち込む観光入込客数

長崎県の観光入込客数は、平成30年まで増加傾向にあったが、新型コロナウイルスの影響により、令和2年は大幅に落ち込んでいる。特に県内客の減少は3～4割にとどまったのに対し、県外客が半減している。

長崎県の観光入込客数の推移

（単位：万人）



※地元客は県内客を含む
資料：長崎県観光統計

■ 県内客 ■ 県外客

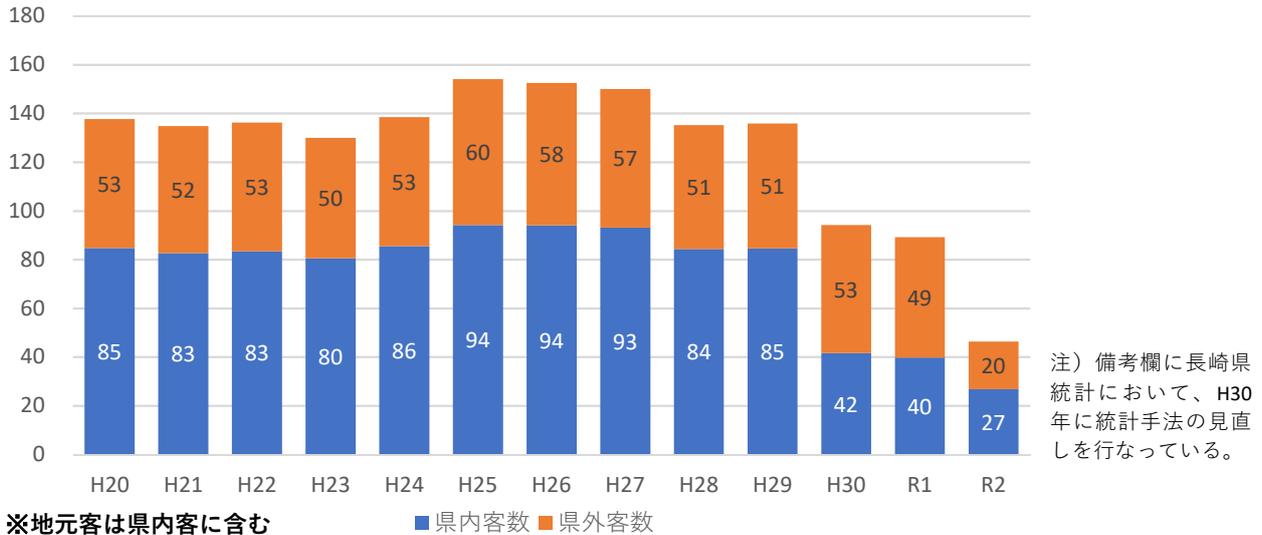
④ 南島原市の観光動向

減少傾向にある観光入込客数

南島原市の観光入込客数は平成25年の154万人をピークに減少傾向にある。令和2年には新型コロナウイルスの影響により、46万人まで落ち込んでいる。

南島原市の観光入込客数の推移

(単位：万人)



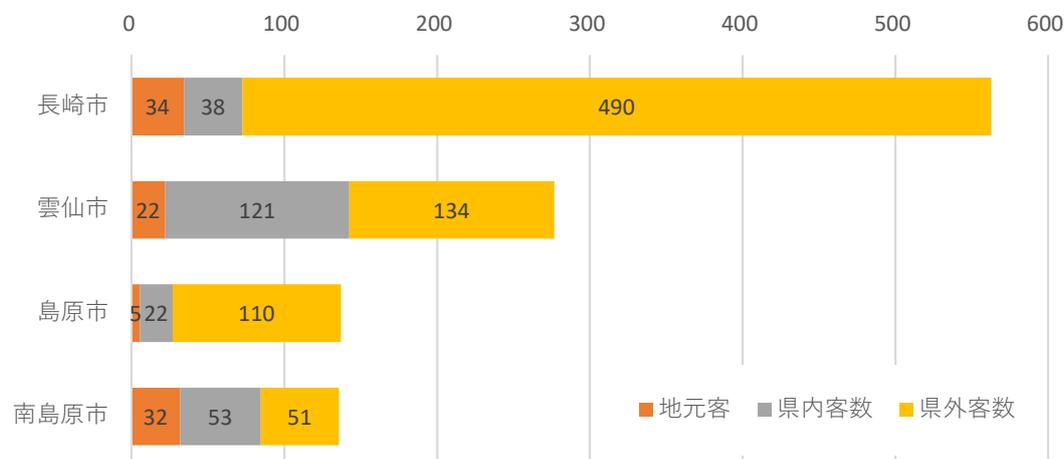
※地元客は県内客に含む
資料：長崎県観光統計

地元、近隣が多い来訪者

平成29年の島原半島の状況を見ると、雲仙市が最も多く年間約270万人であり、南島原市、島原市の倍の規模である。一方、長崎市は年間約570万人と雲仙市の倍の規模である。来訪者の内訳をみると、長崎市、島原市は県外客が多いのに対し、雲仙市、南島原市は県内客が多い。特に南島原市は地元客の占める割合が高い。

長崎県内市町村の観光入込客（平成29年）

(単位：万人)



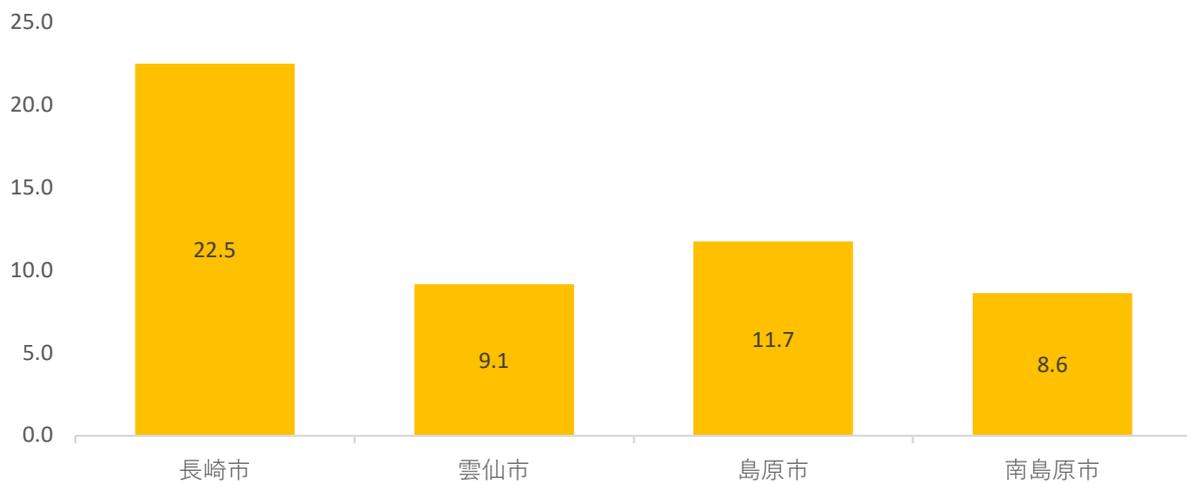
資料：「長崎県観光統計」

観光消費額の比較

平成29年の観光入込客1人あたりの観光消費額を比較すると、長崎市では1人あたり22.5千円なのに対し、南島原市では8.6千円と半分以下の消費にとどまっている。島原市の観光入込客数は雲仙市より少ないものの、1人あたりの観光消費額は11.7千円と雲仙市の9.1千円よりも高い。

長崎県内市町村の観光入込客1人あたりの観光消費額（平成29年）

（単位：千円）



資料：「長崎県観光統計」

■1人あたり観光消費額

(2) 来訪者動向の整理

【要点】

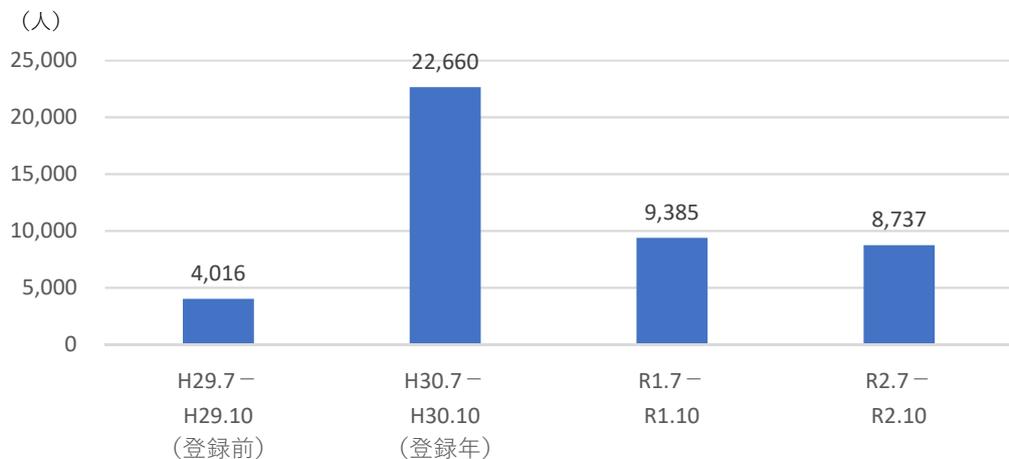
- 原城跡の来訪者は、世界遺産登録前後で増加したものの、その後伸び悩んでいる。
- 有馬キリシタン遺産記念館は、男性、50代以上の歴史好きな人の来訪が多い。
- 自家用車、レンタカー利用が9割を超えており、若者や女性などの交通弱者の対応が課題
- 展示の印象的なテーマは評価が分散傾向。

① 原城跡の来訪者

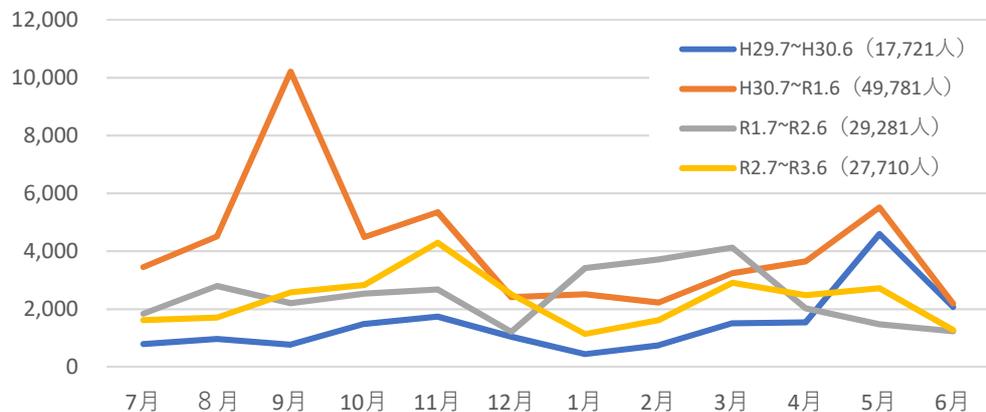
来訪者が伸び悩む原城跡

原城跡の来訪者の推移をみると、世界遺産登録（平成30年6月30日）以前の平成30年5月から増加しており、9月の1ヶ月間だけで1万人が訪れている。しかし、令和元年7月以降は来訪者が伸び悩んでいる。特に新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う緊急事態宣言（令和2年4月7日～5月25日）の影響もあり、令和2年4月、5月の来訪者数は世界遺産の登録以前より落ち込んでいる。

原城跡来訪者数



原城跡来訪者の推移 (単位：人)



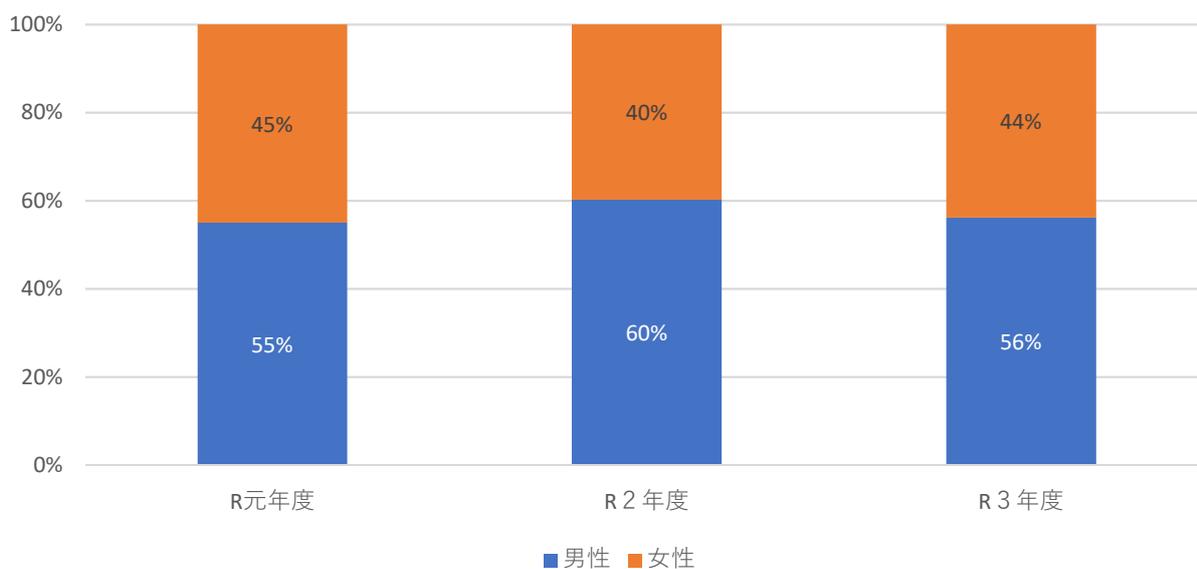
資料：長崎県観光統計「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産の来訪者数」

② 有馬キリシタン遺産記念館の来館者

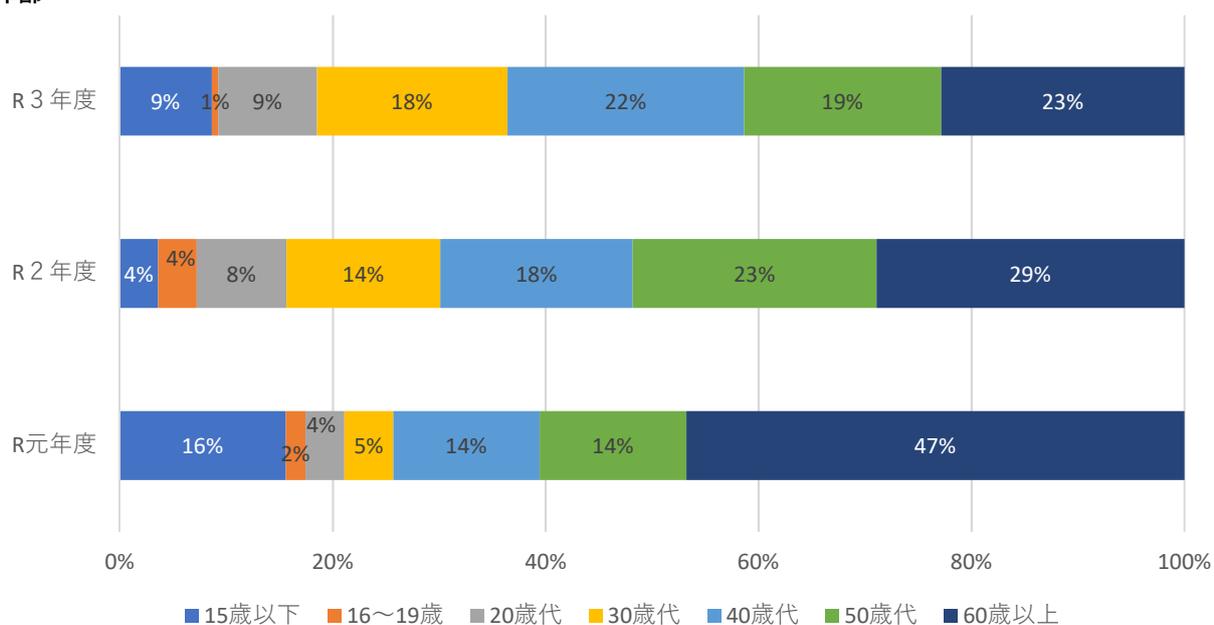
男性、50代以上の来館が多い

有馬キリシタン遺産記念館の来訪者の状況をみると、若干であるが男性が多く、年齢層は40歳代以上で6割を超えている。特に令和元年度は60歳以上の占める割合が4割を超えている。

性別



年齢

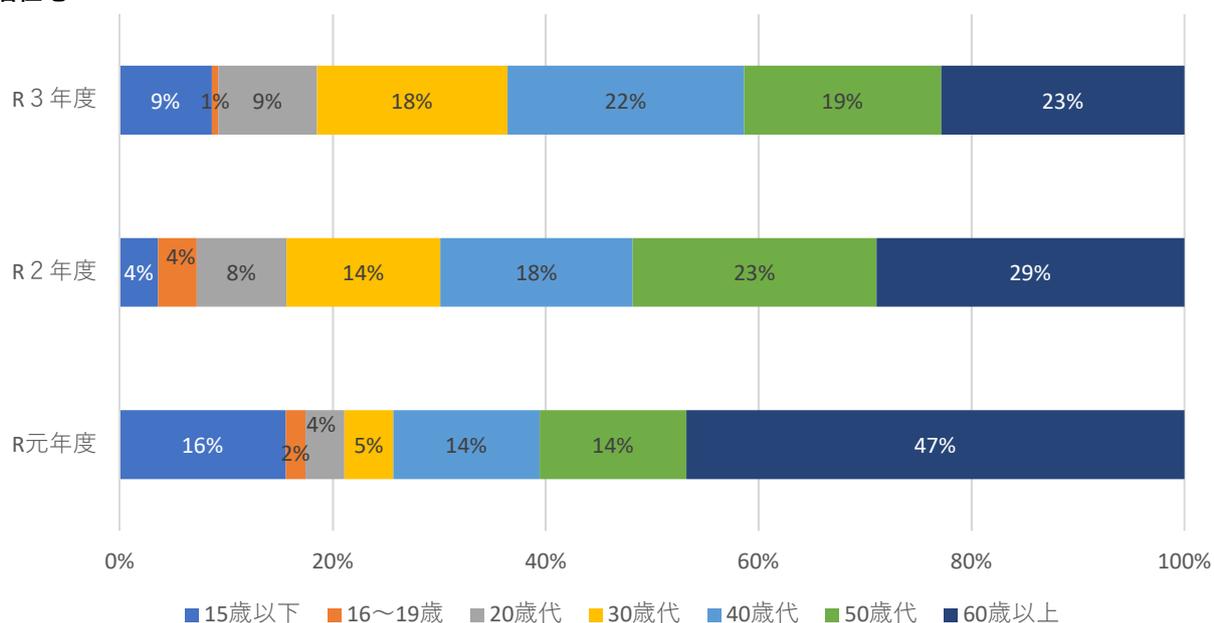


県外からの来訪が多く、従来のメディアの利用が低い

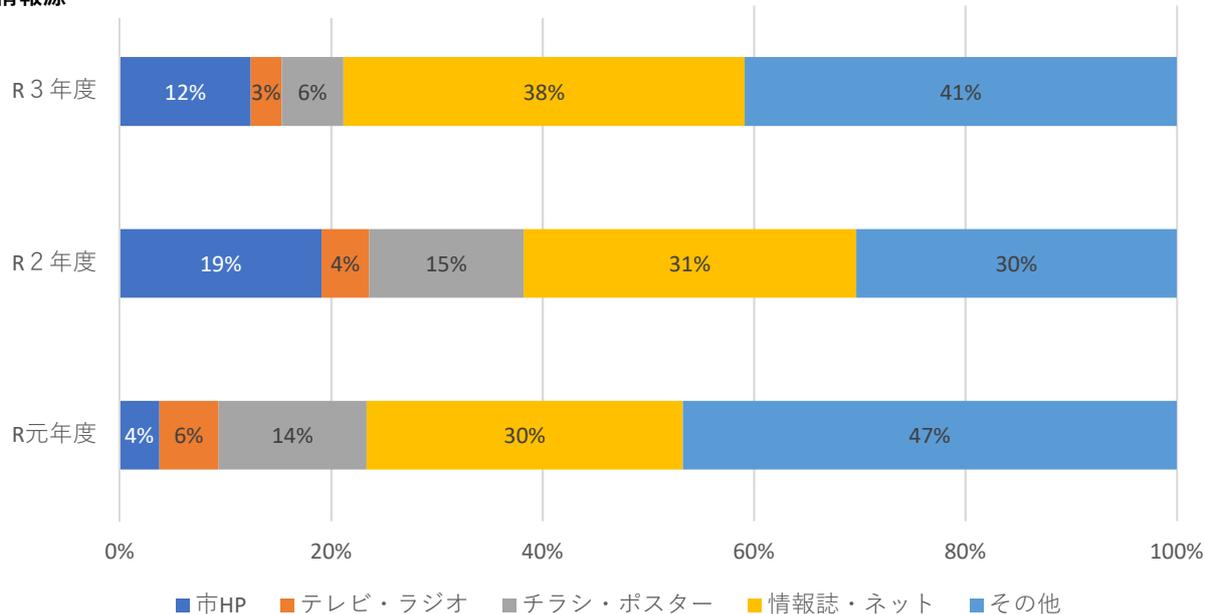
居住地をみると、長崎県・福岡県・佐賀県・熊本県などの近隣からの来訪が4割を超えており、新型コロナウイルスの影響もあり、R2,R3年度はその割合が高まっている。また、関東、近畿からの来訪者もいる。

情報源としては、その他の割合が最も高い（SNSや口コミなどが想定される）。テレビ・ラジオ、チラシなどの従来のメディアの利用は低い。

居住地



情報源

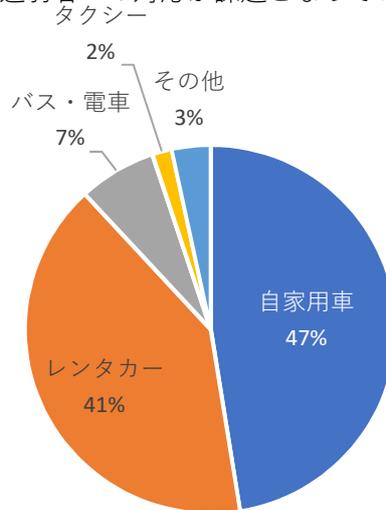


自家用車とレンタカーでの来訪がメイン

自家用車とレンタカーがそれぞれ4割を超えており、全体で9割近く、公共交通の利用は1割に満たない。運営者のヒアリングによると、観光バスでは長崎、雲仙、熊本方面を経由する団体観光ルートが存在するものの、滞在時間や消費行動は限られている。

現在の来訪者の主流である個人旅行の実態（認知方法、来訪目的、移動動線、滞在時間など）の把握が必要であり、女性や若者などの交通弱者への対応が課題となっている。

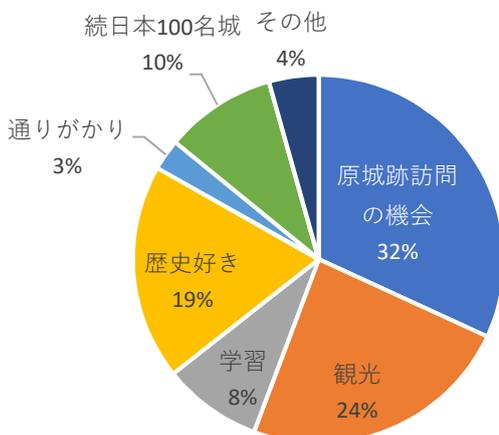
交通手段



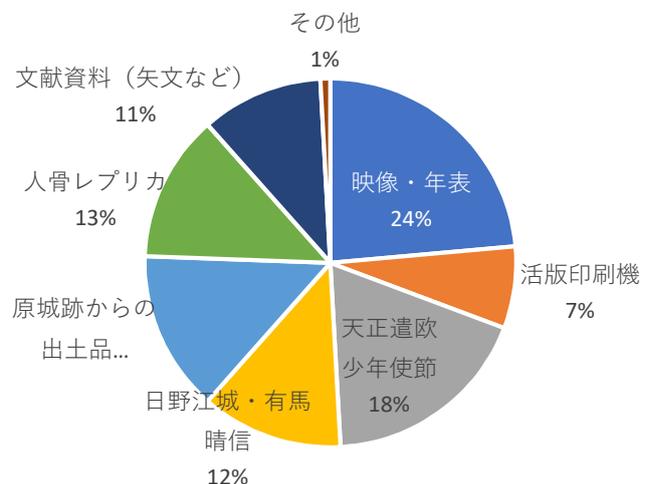
歴史テーマの多様性

有馬キリシタン遺産記念館の訪問目的は、原城跡訪問の機会や観光での来訪が多いものの、歴史好き、学習、続日本100名城などのテーマの幅が存在している。関係者へのヒアリングによると、歴史好きな人たちの中でも、来訪の動機は「名城」「世界遺産」「キリシタン」などテーマは幅広い。印象的な展示についても、映像・年表が最も評価が高いものの、各テーマに評価が分散している。

来館目的 (R3年度,n=185)



印象的展示 (R3年度,n=348)



(3) 観光資源の状況

【要点】

- 地域資源が広範囲に分散分布。
- 島原そうめん、じゃがいも、酒蔵・味噌蔵など、多様な地域資源が存在。
- 南島原市のそもそもの認知度を高めるプロモーション活動と来訪につなげる取り組みの展開。
- 民泊などの経験があり、地域住民主体による観光まちづくりを進める素地がある。
- 直売所の具体化（店舗形態など）に関してはマーケティング調査などが必要

① 歴史資源や食資源の状況

地域に点在する歴史資源の存在

本市には戦国大名有馬氏の南蛮貿易によって国際交流都市として栄えたキリスト教関連文化財が多数点在している。

永禄8年（1567）初めてポルトガル船が入港した「南蛮船渡来の地」が口之津にある。

宣教師ヴァリアーノは天正7年（1579）日本人司祭を育成するための学校を設立。市内では「加津佐コレジョ・セミナリオ跡」や「有馬セミナリオ跡」等が見られる。

キリシタン大名有馬晴信の本拠地「史跡日野江城」では南蛮貿易をものがたる遺物が数多く出土している。またキリスト教の定着においては「史跡吉利支丹墓碑」に代表されるキリシタン墓碑は全市域に広がっている。

日野江城の支城である「史跡原城跡」は、中近世の城郭の特長が見られる城跡であるとともに、島原・天草一揆の主戦場としての遺構や遺物や供養塔などを見ることができる。

史跡原城跡は海禁体制を確立する契機となるとともに、宣教師不在のもとに潜伏キリシタンが自らの信仰を密かに継続するきっかけとなった。「原城跡」は、世界遺産のストーリーの出発点となる貴重な遺産である。

島原手延素麺などの食資源の存在

本市は、豊かな自然と人々の思いから生まれた特産品が数多くある。

全国第2位の生産量を誇る「島原手延素麺」は、今も伝統の技によってその味と品質が受け継がれており、素麺提供店舗のマップや連携企画なども取り組まれている。

農産物はばれいしょ、いちご、たまねぎ、海産物ではワカメ、フグ、アラカブ（カサゴ）がある。特に「ばれいしょ」はオランダ船によりジャカルタから長崎へ伝来したといわれ、本市は県内でも有数の生産地である。収穫時には収穫体験民泊など人気の体験ツアーがある。

有家は酒蔵、みそ醤油蔵がある風情豊かな地域である。ありえ蔵めぐりは雛飾り見学とともに新酒の試飲を楽しむことができる。産直サイト「みなたから」では産直野菜などの詰め合わせを販売するWebマルシェを展開している。

■南島原市観光資源



南蛮船来航の地



有馬セミナリヨ



日野江城



吉利支丹墓碑



原城跡



原城跡

■南島原市食資源



島原手延素麺



ありえ蔵めぐり



いちご



ばれいしょ



たまねぎ



かさご

② 地域活動の状況

「南島原」の認知度向上の取組

本市では「南島原市」を認知してもらうプロモーション活動を実施している。

原城跡、天草四郎、島原そうめんの認知度を高めるため、満島ひかりさんが出演したPV「突撃！南島原情報局【神回】」はYoutubeで60万回以上再生されるなど、成果を上げている。一方、コロナの影響もあり、南島原市への来訪者増加にはまだ結びついていない。今後も継続的なプロモーションと合わせて、来訪につなげる戦略として、市内回遊を促すアプリの開発も進められている。

民泊事業を通じた住民主体のおもてなし観光の素地

南島原市では、市町村合併後の事業として民泊に取り組んでおり、現在では南島原市内全域に160軒の協力者と全国の中高校50校から年間1万人近くを受け入れるネットワークが存在している。民泊の経験を通じて地域住民が市内の観光拠点のガイド役などおもてなしの役割も果たしている。また市内イベントに協力的な事業者も多い。

民泊事業では旧町各地で受け入れ世帯があり、住民主体の観光に取り組む素地が存在している。また、口之津の漁業者は英語を苦としない人も多く、外国人（インバウンド）の受け入れ素地もある。



PV「突撃！南島原情報局【神回】より



南島原ひまわり観光協会 民泊体験映像より

(4) 先進観光地域の取り組み

【要点】

- 「大人数・短時間・簡単に」の大規模集客から「少人数・長時間・丁寧に」の価値観へのシフト。
- 過度に観光化せず、地域住民を最優先にした観光戦略への転換が進む。
- 地域そのものを資源とし、住民が主体で観光に取り組むコミュニティツーリズムが注目されている。
- 博物館やビジターセンターが中心になり、地域住民主体の観光まちづくりを推進している。

マイクロツーリズム

新型コロナウイルスの影響が継続する中、3密を避けながら地元の方が近場で過ごす旅のスタイル（ご近所旅行）のあり方を星野リゾートが提案している。①地域内観光、②地元の魅力再発見、③地域の方々とつながりの3つをテーマとして、自宅から1～2時間程の距離で安心、安全に過ごしながら地域の魅力を深く知るきっかけになり、地域経済にも貢献できる旅行を提案している。

レジデンス（居住者）・ファースト

アムステルダム（オランダ）やバルセロナ（スペイン）、ベルリン（ドイツ）などのヨーロッパの都市では、過度に観光客が都市を訪れ、地価が上昇し、都市部に住民が住めなくなるなど、地域が疲弊したことを反省し、観光戦略を転換している。旅行者数よりも受け入れ地域の住民を重視し、地域交通や宿泊産業のサステナビリティ（持続可能性）を徹底したツーリズム戦略であり、観光客の分散（一極集中の防止）や交通アクセスの改善、ホスピタリティ（おもてなし）の強化などが主要なテーマになっている。

コミュニティ・ベースド・ツーリズム（CBT）

コミュニティを構成する住民の手によって実践される観光活動のことであり、CBTを通じて、観光客が地域の習慣や文化、儀式、知恵などを発見し、コミュニティの人々との交流を行うことを目的としている。事例としては、兵庫県丹波篠山の集落丸山、エクアドルのラ・エスペランサ村などが挙げられる。

〈コミュニティ・ベースド・ツーリズム 10の原則〉

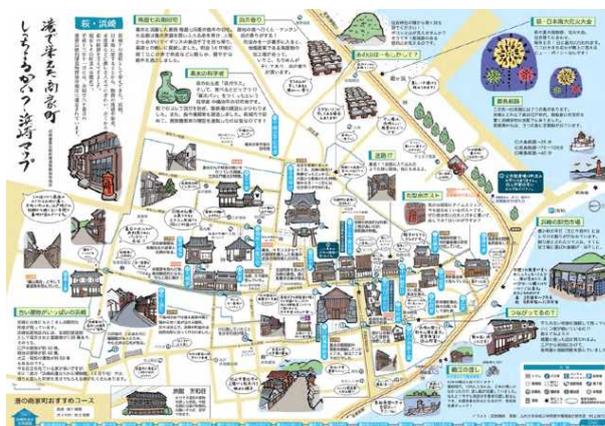
- ① ツーリズムがコミュニティのためだということを理解し、促進する。
- ② 最初から全ての局面においてコミュニティメンバーを巻き込んでいる。
- ③ コミュニティの誇りを維持し、増やしていく。
- ④ 地域の生活の質を向上させる。
- ⑤ 環境的な持続性を確保する。
- ⑥ 地域の固有の文化を維持する。
- ⑦ 文化交流を促進する。
- ⑧ 文化的違いや人間的な尊厳を尊重する。
- ⑨ コミュニティメンバーに利益を平等に分配する。
- ⑩ コミュニティの事業に収入の一部を還元していく。

地域観光の拠点となる博物館・ビジターセンター

萩博物館では、まち全体を屋根のない博物館と見立てた「萩まちじゅう博物館」として、地域に広く存在する“おたから”を保存・活用し、市民活動団体と連携した観光まちづくりを進めている。また、石見銀山遺跡では約200名の市民プランナーと行政が石見銀山協働会議を組織。石見銀山基金を設置し、ビジターセンターを中心に県内小中学校の学習プログラム提供や清掃活動を実施している。



萩まちじゅう博物館イメージ（構想より）



浜崎まち歩きマップ

第2章

基本南島原市フィールド ミュージアムの概要

1. 南島原市フィールドミュージアムとは

南島原市フィールドミュージアム※とは、本市全体をひとつの博物館として捉え、市内広域に点在している多くのキリシタン関連遺産を原城跡を中心としてつなぎ、来訪者に巡っていただくことにより、世界遺産としての本市の歴史文化の価値と魅力を発信し、観光振興、産業振興を図る取組として位置づける。

その展開にあたっては、キリシタン関連遺産を資源とした文化観光の推進を中心としながら、島原手延べそうめんなどの食文化、島原半島ジオパークの自然など、市内外の多彩な資源をつなぎ、本市及び島原半島広域での周遊性を高めることにより、広域からの誘客を促進し、観光振興・産業振興を図ることを目標とする。

※フィールドミュージアムとは、地域全体（フィールド）をひとつの博物館（ミュージアム）と捉え、来訪者が地域全体を巡りながら、その地域の魅力や歴史文化に触れていく仕組みのこと。

2. 南島原市フィールドミュージアムを構築する上での課題等

(1) 本計画の位置づけ及び本市の現況などからの課題

本市全体を舞台とした文化観光の発展に貢献することが必要

本市では、歴史・文化財を活かしたまちづくりと世界遺産を活用した観光プログラム開発が進められており、原城跡などの歴史的価値を教育・学習、産業振興、観光振興の資源として総合的に活用していくことが求められている。また「長崎県文化観光推進計画」と連携した取組を進める観点からも、本市全体を舞台とした文化観光を発展させ、本市のまちづくりに貢献する拠点づくりが必要となっている。

教育・学習、観光、産業支援の役割を持った文化観光拠点づくり

文化観光と連動しながら市民が産業振興を実感できることが必要

若者からこれまでまちの産業を支えてきた人たちまでの多くの世代の市民がフィールドミュージアムの枠組みに参画し、農林漁業体験民泊の受け入れや自らが生産した作物の販売、ガイド活動などにより、来訪者と交流しながら、地域の盛り上がりを実感でき、それがさらなる取組の発展につながっていく環境整備が必要である。

来訪者との交流と市民の生きがい good 循環する場づくり

(2) 観光動向等の整理からの課題

さまざまな来訪者層の興味関心を喚起し、誘客を図る取組が必要

本市を訪れる観光客は、地元・近隣からが多く、また歴史好きの比較的年齢の高い層が多いという特徴がある。一方、本市独自の交流の取組である農林漁業体験民泊が観光入込の増大に成果を上げている。今後はこれらの取組の成果を活かして、広域からの誘客拡大につなげていく取組が求められる。

本市独自の農林漁業体験民泊の成果を活かした広域からの観光誘客

キリシタン関連史跡や食資源等、多彩な魅力資源などポテンシャルの活用

本市のキリシタン関連史跡をはじめとする資源のポテンシャルは高いものの、市内全域に点在しており、必ずしもその価値や魅力が伝わっているとは言い難い状況となっている。また本市にはキリシタン関連以外にも、島原手延そうめんなどの食資源もあることから、本市の歴史文化をわかりやすく発信するとともに、多様な資源の体験につなげていくことが求められる。

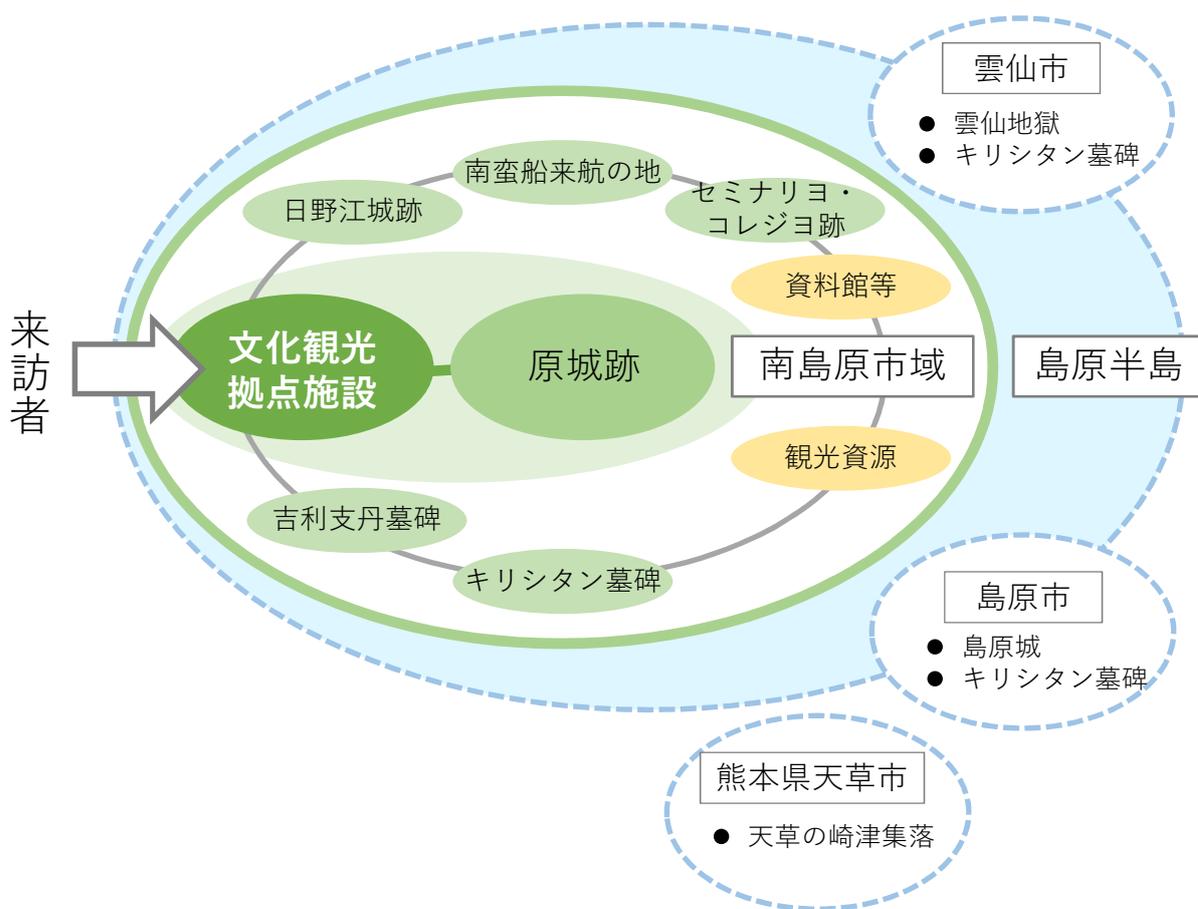
市内外の資源をつなぎ、わかりやすく発信する仕組みづくり

これらの方向性を踏まえ、南島原市フィールドミュージアムが目指すべき姿を設定する。

3. 南島原市フィールドミュージアムが目指す姿

キリシタン関連の文化資源の保存と活用を核としながら、
 地域の暮らしの中にある資源を掘り起こし、
 市全体へとひろがり、
 段階的に成長していく「フィールドミュージアム」

■南島原フィールドミュージアムの展開イメージ



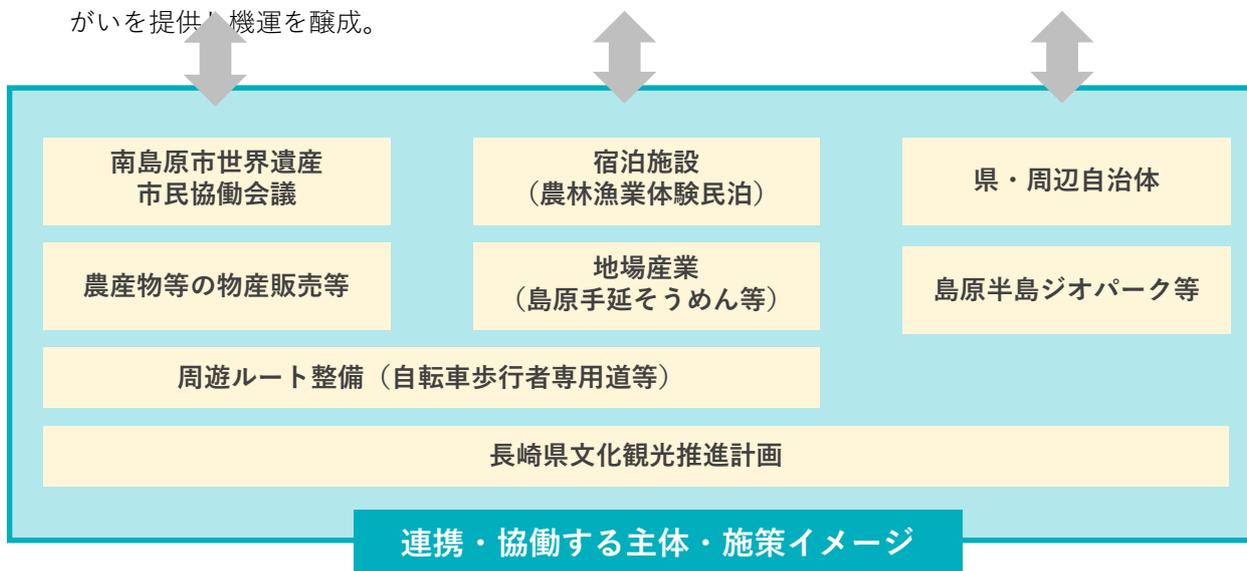
4. 南島原市フィールドミュージアム構築イメージ

文化観光施設の整備を第一段階として、段階的に構築していくことを基本的な考え方とする。文化観光拠点施設の整備により、本市の歴史文化が持つ価値と魅力を発信するとともに、市民のフィールドミュージアム推進機運を醸成。それを原動力として南島原市フィールドミュージアムを、他の資源や施策と連携しながら市内全域へと展開していくとともに、島原半島広域での連携拡大を図る。

■南島原フィールドミュージアムの構築イメージ



- フィールドミュージアムの中心となる原城跡のガイダンス施設に文化観光拠点施設を整備。
- 世界遺産の構成資産である原城跡のガイダンス展示等の整備を通じて本市の歴史文化の価値を内外に発信。
- 市民の参画による観光案内、物産販売等により、来訪者との交流を促進。いきがいを提供し機運を醸成。
- 本市域を回遊するルートづくりと各資源における環境整備を推進。
- 市民との協働により、市内の資源を磨き上げ、魅力ある観光体験を来訪者に提供。
- 市内での食文化体験、宿泊体験等を通じて、観光振興、産業振興に貢献。
- 島原半島をつないだ回遊ルートと環境整備を推進。
- 島原半島ジオパークの自然など、島原半島の多彩な魅力を発信し、さらなる広域誘客を促進。



第3章

文化観光拠点施設整備構想

1. 文化観光拠点施設の位置づけと役割

(1) 文化観光拠点施設の位置づけ

南島原市フィールドミュージアムにおける 体験・交流型文化観光のハブとなる 歴史文化の発信と周遊、交流と産業振興の拠点

(2) 文化観光拠点施設が担うべき役割

1. 観光情報の発信による来訪者の総合案内

市内に点在する歴史文化資源について案内し、来訪者を市内回遊へと誘うとともに、市民との協働により本市の歴史文化資源を磨き上げ、魅力あふれる文化観光コンテンツとして提供する。

- 本市の観光資源情報の発信
- 本市の魅力を楽しむための周遊ルートの提案
- 市民との協働による周遊ルートの開発・提供

2. 文化観光と連携した物産販売による産業振興

市内外からの観光集客を地場産業の育成・活性化につなげる。フィールドミュージアムを通じた産業振興を市民が実感し、いきがいを育むことで、歴史文化のまちづくりへの機運を醸成する。

- 市民参加による物産販売
- 食など、本市の多様な魅力の発信
- 積極的な外部への発信、プロモーション

3. 市内外の人々に向けた本市の歴史文化のガイダンス

本市の歴史文化の価値と魅力をわかりやすく伝え、市内外の人々に本市の魅力を発見してもらう。市民の誇りを醸成するとともに、未来に向けた地域づくりの担い手となる若者や子どもたちの人材育成を図る。

- 本市のキリシタン関連資産の価値をわかりやすく展示
- 歴史文化のまちづくりの担い手の育成

4 観光客の利便性の充実

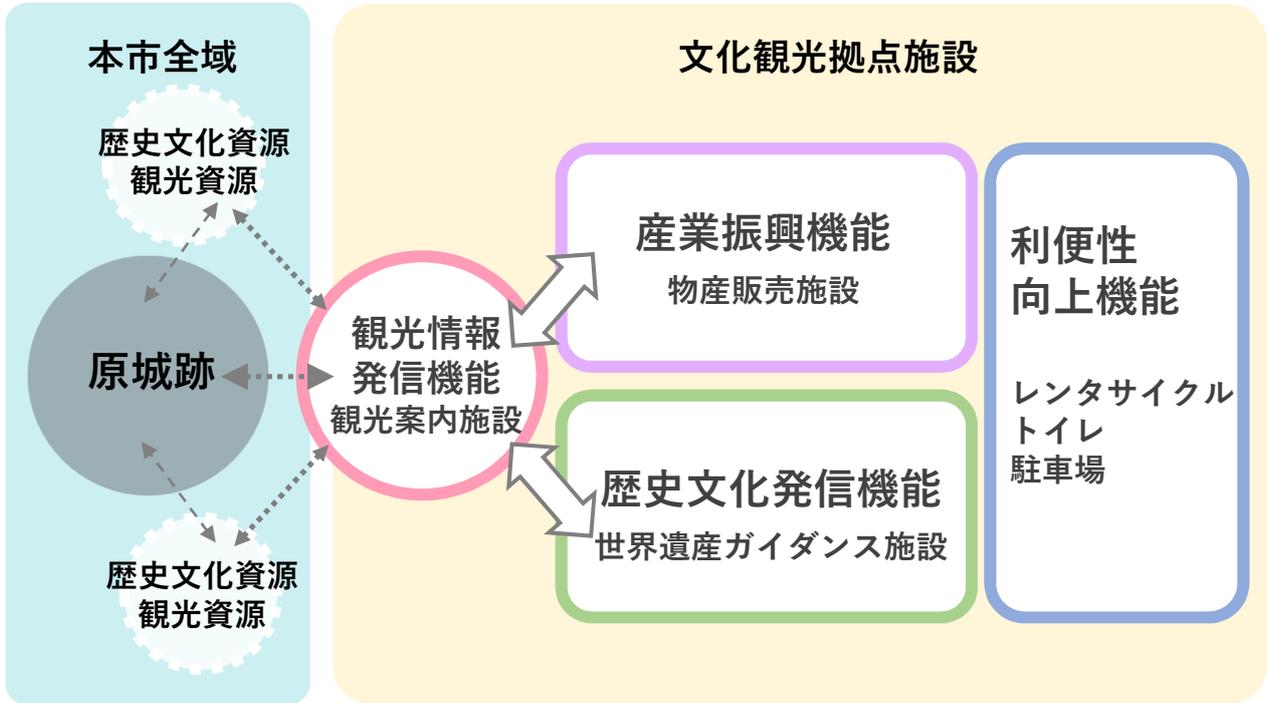
観光客が立ち寄りやすいアメニティ機能を整備し歴史観光周遊の活性化を図る。

- レンタサイクルなどの移動手段の提供
- 多機能トイレの整備
- 駐車場の整備

2. 文化観光施設に必要となる機能

文化観光拠点施設が担うべき3つの役割を施設機能に展開し、施設構成の基本とする。

■施設機能構成概念図



■各施設機能概要

機能		概要
観光情報発信機能 (観光案内施設)		<ul style="list-style-type: none"> 市内の文化観光情報を集積して提供 市内を巡りながら歴史文化を学ぶフィールドミュージアム体験のスタート地点としての役割を持つ。
産業振興機能 (物産販売施設)		<ul style="list-style-type: none"> 市民（生産者）による農産物の直売等により、市民と観光客の交流を育むとともに、市民が産業振興を自分事として実感し、生きがいを提供する場を提供。
歴史文化発信機能 (世界遺産ガイダンス施設)		<ul style="list-style-type: none"> 原城跡の「有馬氏時代に築かれた城郭としての価値」と「島原・天草一揆の主戦場となった戦跡としての価値」をわかりやすくガイダンス。 こどもたちや歴史に詳しくない人たちでも楽しめる・理解しやすい展示を展開。
利便性向上機能	レンタサイクル施設	<ul style="list-style-type: none"> ニーズに合う自転車を設置することで利用者の拡大をはかる。 回遊性を向上させる電動自転車の拡充
	トイレ	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる人が活用できる安心・安全な多機能トイレ
	駐車場	<ul style="list-style-type: none"> 車いす使用者用駐車スペースの確保 駐車料金割引など利用の促進を

3. 文化観光拠点施設の敷地・規模・配置の考え方

(1) 整備候補地概要

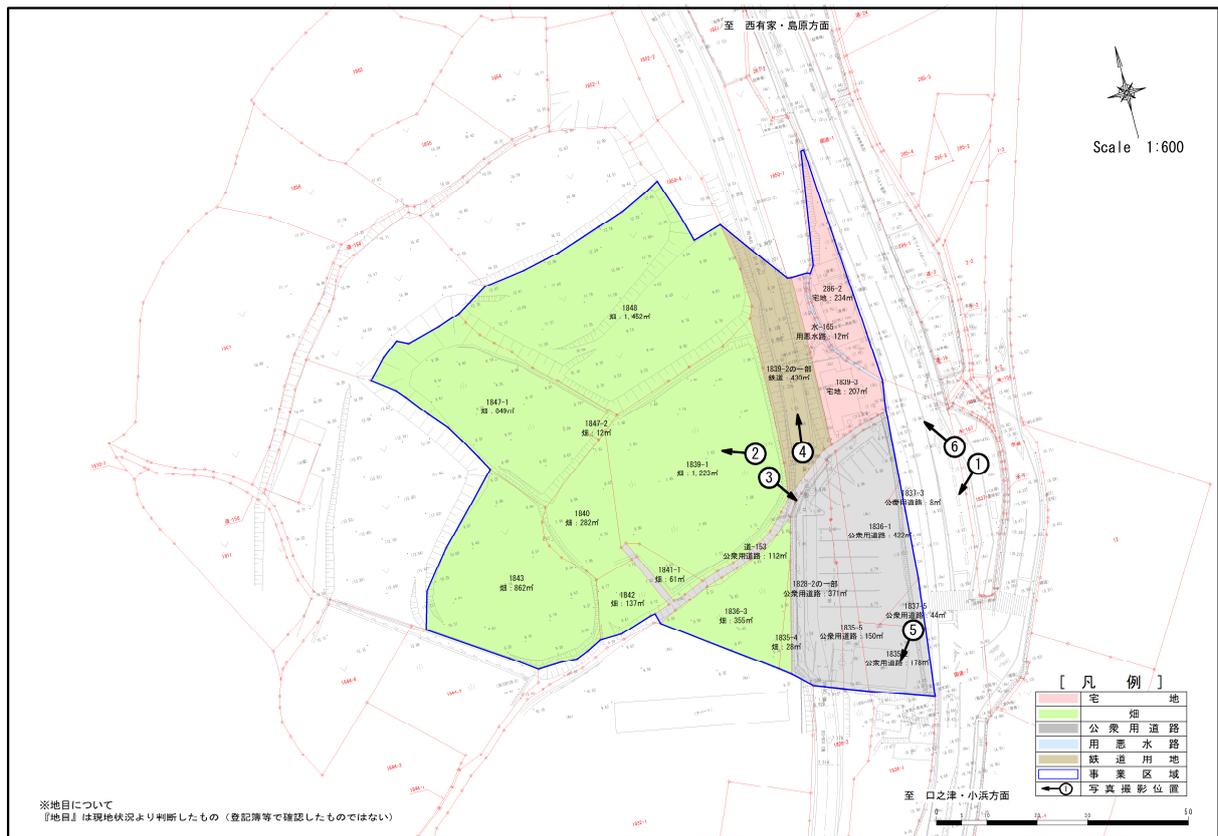
① 事業区域の状況

本事業区域は、原城跡（本丸跡）から北に約750m離れた位置にあり、国道251号に隣接した位置にあり、敷地は、道路公園のほか、畑、宅地、旧島原鉄道用地などで構成されている。

史跡原城跡指定範囲外にあたるものの、南島原市景観条例により、景観計画地区（原城跡・日野江城跡周辺重点地区）の区域内に位置している。

文化財的価値は、これまで2回にわたり遺跡発掘調査が行われているが、世界遺産の構成資産に影響を及ぼすような重要な史跡、遺跡、遺構等は発掘されておらず、文化財的価値は有していないと判断されている。

事業区域



原城跡 島原・天草一揆の遺構等分布図



② 周辺状況

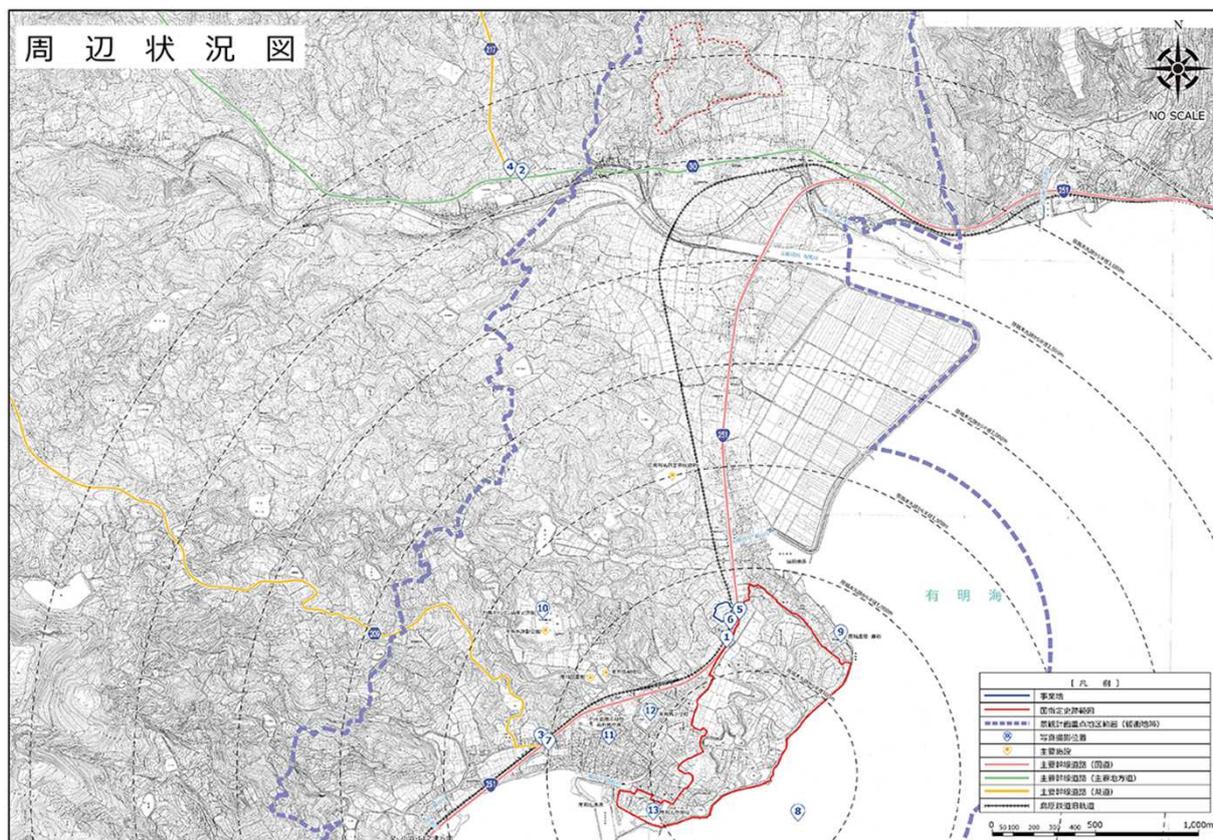
本事業区域は島原半島の沿岸部を周回する国道251号に隣接し、近傍には路線バス（島鉄バス）の停留所（原城前バス停）があり、平日43本/日（休日36本/日）のバスが発着している。

周辺道路交通環境は、主要地方道小浜北有馬線（県道30号）、一般県道山口南有馬線（県道209号）、一般県道矢吹南有馬線（県道217号）などによって道路ネットワークが形成されている。

また、国道251号の西側に島原鉄道の旧軌道敷きが並行して通過しており、現在は「南島原市自転車活用推進計画」に基づいて自転車道の整備が進められている。

このほか、周辺には原城跡（本丸跡）のほか、原城温泉真砂、有馬キリシタン遺産記念館、南島原市南有馬庁舎、南島原市立南有馬小学校、南有馬中学校などがある。

周辺状況図



③ 遺産影響評価について

本事業区域は、世界遺産の構成資産である「原城跡」の緩衝地帯内にあることから、世界遺産の顕著な普遍的価値（OUV）に与える影響について、遺産影響評価に定められた10箇所の眺望点からの影響について確認を行った。

[ポイント（眺望点）の位置付け]

ポイント（眺望点）	普遍的価値	視認方向
①本丸	B：各要素に対する視覚的影響を考慮するための眺望点	360度（事業地方向）
②二ノ丸	B：各要素に対する視覚的影響を考慮するための眺望点	360度（事業地方向）
③二ノ丸出丸	A：緩衝地帯の景観を保全するうえで重要な視軸	日野江城跡方面
	B：各要素に対する視覚的影響を考慮するための眺望点	360度（事業地方向）
④三ノ丸	B：各要素に対する視覚的影響を考慮するための眺望点	360度（事業地方向）
⑤鳩山出丸	B：各要素に対する視覚的影響を考慮するための眺望点	360度（事業地方向）
⑥天草丸	B：各要素に対する視覚的影響を考慮するための眺望点	360度（事業地方向）
⑦仕寄場	B：各要素に対する視覚的影響を考慮するための眺望点	360度（事業地方向）
⑧日野江城跡本丸	A：緩衝地帯の景観を保全するうえで重要な視軸	原城跡方面
⑨あこう街道	C：来訪者受け入れポイントにおける眺望点	湯島方面
⑩南有馬公園	C：来訪者受け入れポイントにおける眺望点	本丸方面

遺産影響評価調査結果図



3. 文化観光拠点施設の敷地・規模・配置の考え方

(2) 施設規模の考え方

① 施設規模の検討について

文化観光拠点施設の各施設の規模検討にあたっては、多様な視点による検討を行う必要があるため、既往資料などの基礎資料などから算定が可能な以下の5つの手法において検討を行った。

施設区分と規模検討手法の対比一覧

施設区分		規模検討手法					備考
		①	②	③	④	⑤	
		想定値	NEXCO 設計要領	道路設計 要領	事例	その他	
観光案内施設		—	○	—	○	—	
物産販売施設		○	○	—	○	—	
世界遺産ガイダンス施設		○	—	—	○	○	その他：文献事例
利便性 向上機能	レンタサイクル 施設	○	—	—	—	—	
	トイレ	—	○	○	○	—	
	駐車場	○	—	○	○	○	その他：周辺施設 整備事例

① 「想定値」に基づく規模検討

過年度利用者数などの実績値を参考に設定した「想定値」に基づき規模を検討する。

② 「NEXCO設計要領」に基づく規模検討

設計要領第六集建築施設編第1編 休憩用建築施設（西日本高速道路株式会社、令和3年7月）に示された手順により規模を検討する。

③ 「道路設計要領」に基づく規模検討

道路設計要領（設計編）第3章 幾何構造（国土交通省中部地方整備局 平成26年3月）に示された手順により規模を検討する。

④ 「事例」に基づく規模検討

同種・類似事例の施設情報に基づき規模を検討する。

⑤ 「その他」に基づく規模検討

文献や周辺施設の整備状況などの施設情報に基づき規模を検討する。

② 検討結果

観光案内施設の検討結果

観光案内施設の規模検討結果は以下の通りである。

規模検討ケース	検討概要	検討結果 (規模面積)	備考
②	「NEXCO 設計要領」 に基づく規模検討	70㎡	
④	「事例」に基づく規 模検討	40㎡	4施設事例の施設規模平 均値
検討ケース2パターンの平均値		55㎡	

以上の結果から、観光案内施設規模は**55㎡程度**が適していると考えられる。

物産販売施設の規模検討結果

物産販売施設の規模検討結果は以下の通りである。

規模検討ケース	検討概要	検討結果 (規模面積)	備考
①	「想定値」に基づく 規模検討	200㎡	想定値は妥当である。 (サービス水準Aを満足 している)
②	「NEXCO 設計要領」 に基づく規模検討	160㎡	
④	同種施設の「事例」 に基づく規模検討	205㎡	7施設事例の施設規模平 均値
検討ケース3パターンの平均値		188㎡	3つの規模検討ケー スの平均値

以上の結果から、物産販売施設の規模は**200㎡程度**が適していると考えられる。

世界遺産ガイダンス施設の検討結果

世界遺産ガイダンス施設の規模検討結果は以下の通りである。

規模検討ケース	検討概要	検討結果 (規模面積)	備考
①	「想定値」に基づく規模検討	450㎡	想定値は妥当である。 (サービス水準Aを満足している)
④	同種施設の「事例」に基づく規模検討	410㎡	7施設事例の施設規模平均値
⑤	文献の「事例」に基づく規模検討	496㎡	
検討ケース3パターンの平均値		452㎡	3つの規模検討ケースの平均値

以上の結果から、ガイダンス施設の規模は**400㎡～500㎡程度**が適していると考えられる。

レンタサイクル施設の規模検討結果

レンタサイクル施設の規模検討結果は以下の通りである。

規模検討ケース	検討概要	検討結果 (規模面積)	備考
①	「想定値」に基づくの規模検討	15㎡	

以上の結果から、附帯施設の規模は**15㎡程度**が適していると考えられる。

便器数に基づき、トイレに必要となる面積の算定を行った。

規模検討 ケース	検討概要	検討結果（便器数）						備考
			男		女	多目的		
			小	大				
②	「NEXCO設計要領」 に基づく規模検討	12器	6器	3器	3器	5器	1器	A=41.4㎡
③	「国道交通省設計 要領」に基づく規 模検討	19器	10器	6器	4器	9器	-	A=84㎡
④	「事例」に基づく 規模検討	16器	9器	6器	3器	6器	2器	20施設事例の施設 規模平均値
検討ケース3パターンの平均値		17器	8器	5器	3器	7器	2器	3つの規模検討 ケースの平均値

トイレの規模検討結果

トイレの規模検討結果は以下の通りである。

項目		数値	適用／備考
①	男子小便器数（ v_{m1} ）	5器	施設規模検討ケース平均値
②	男子大便器数（ v_{m2} ）	3器	施設規模検討ケース平均値
③	女子便器数（ v_f ）	7器	施設規模検討ケース平均値
④	多目的トイレ便器数	2器	施設規模検討ケース平均値
⑤	小便器1人あたり面積（ U_m ）	3.0㎡	$U_m = 3.0\text{㎡}$ > NEXCO設計要領より
⑥	大便器1人あたり面積（ U_f ）	5.4㎡	$U_f = 5.4\text{㎡}$ > NEXCO設計要領より
⑦	多機能1人あたり面積（ U_h ）	10.8㎡	$U_s = 10.8\text{㎡}$ > NEXCO設計要領より
⑧	トイレ必要面積	90.6㎡	$⑧ = ① \times ⑤ + (② + ③) \times ⑥ + ④ \times ⑦$

以上の結果から、トイレの規模は**100㎡程度**が適していると考えられる。

駐車所の規模検討結果

駐車場の規模検討結果は以下の通りである。

規模検討 ケース	検討概要	検討結果（駐車ます数）			備考	
			小型車	大型車		障がい者
①	「想定値」に基づく規模検討	34台	32台	2台	－	
②	「NEXCO設計要領」に基づく規模検討	53台	45台	7台	1台	
③	「事例」に基づく規模検討	90台	78台	9台	3台	19施設事例の平均値
⑤	周辺施設の「駐車場整備状況」に基づく規模検討	54台	54台			
検討ケース4パターンの平均値		61台	53台	6台	2台	4つの規模検討ケースの平均値

(3)施設配置の考え方

① 検討概要

(1) 整備候補地概要でとりまとめた事業区域(21筆、A=7,433㎡)において、(2)施設規模の考え方でとりまとめた各施設の規模検討結果を参考値として、文化観光拠点施設の全体配置案の検討及び概算事業費の検討・整理を行った。

建物施設の規模検討結果

施設分類/施設区分	施設規模	備 考
観光案内施設	55㎡	
物産販売施設	200㎡	
世界遺産ガイドンス施設	450㎡	
レンタサイクル施設	15㎡	
トイレ	100㎡	
小計	820㎡	
共用空間(小計×15%)	123㎡	廊下、倉庫、バックヤード等→施設規模の15%相当
建物施設計	950㎡	$820㎡ + 123㎡ = 943㎡ \approx 950㎡$

駐車場の規模検討結果

車両区分	駐車ます数	備 考
小型車	53台	
大型車	6台	
障がい者	2台	
計	61台	

② 全体配置案の検討

文化観光拠点施設の全体配置案の検討にあたっては、各施設の規模検討結果をふまえ、以下に示したゾーンを事業区域内にレイアウト（ゾーニング）するとともに、そのレイアウト案に基づき、配置計画図を作成し、各案の概要や特徴等について整理、とりまとめを行った。

[全体配置案で整理するゾーン概要]

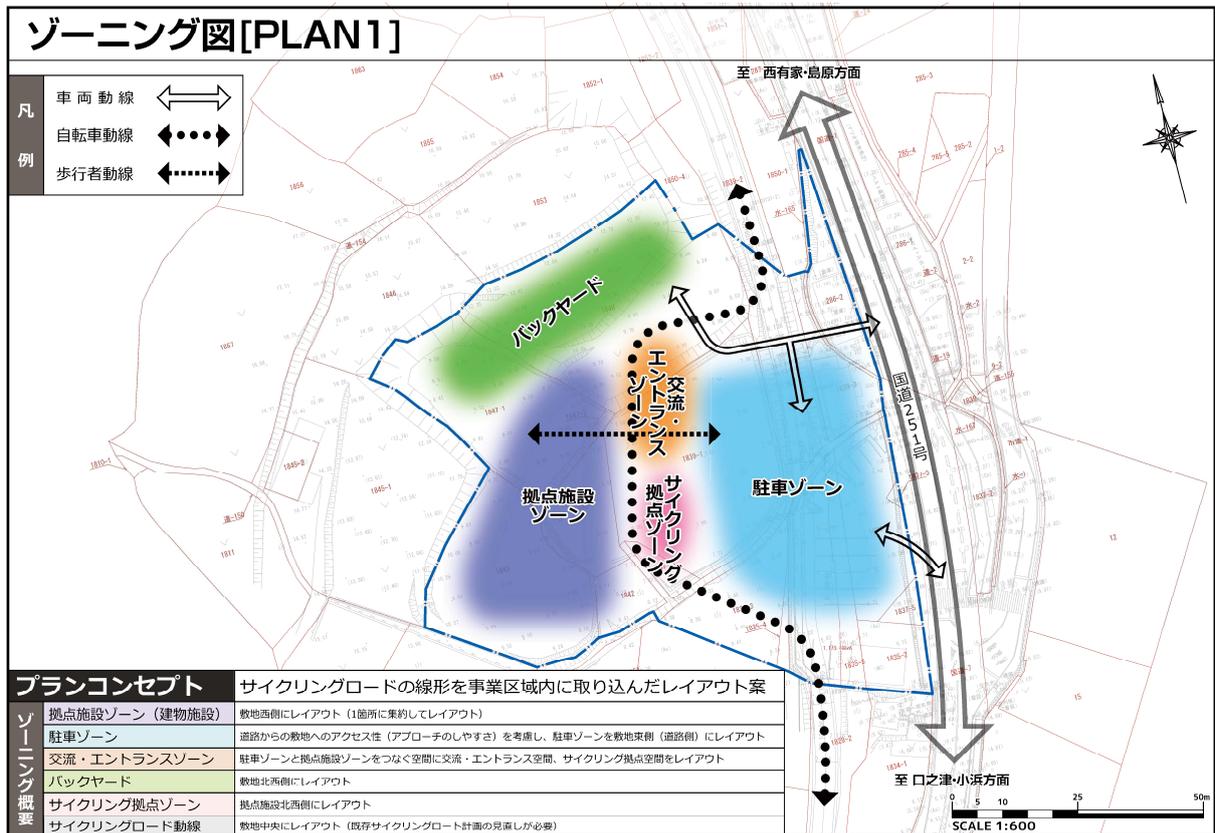
ゾーン名	ゾーン概要	備考
拠点施設ゾーン	ガイダンス施設や物産販売施設、附帯施設（観光案内、厨房施設、レンタサイクル）、トイレ等の機能を有した建物施設が整備されるゾーン	約950㎡程度で検討
交流・エントランスゾーン	交流拠点施設と駐車ゾーンをつなぐ施設のエントランスを兼ねたゾーン	
サイクリング拠点ゾーン	敷地内を通過するサイクリングロード利用者の休憩等の利用ができるゾーン	
駐車ゾーン	車で訪れた来訪者が駐車するゾーン（駐車場）	規模検討結果相当以上の駐車台数が確保できるよう検討
バックヤード	施設管理者や事業者等が業務用（資材、商品等の搬出入等）として利用するゾーン	
サイクリングロード動線	事業区域内におけるサイクリングロード動線の取り扱い	

次頁より、全体配置案の検討資料を添付する。

③全体配置プラン（案）

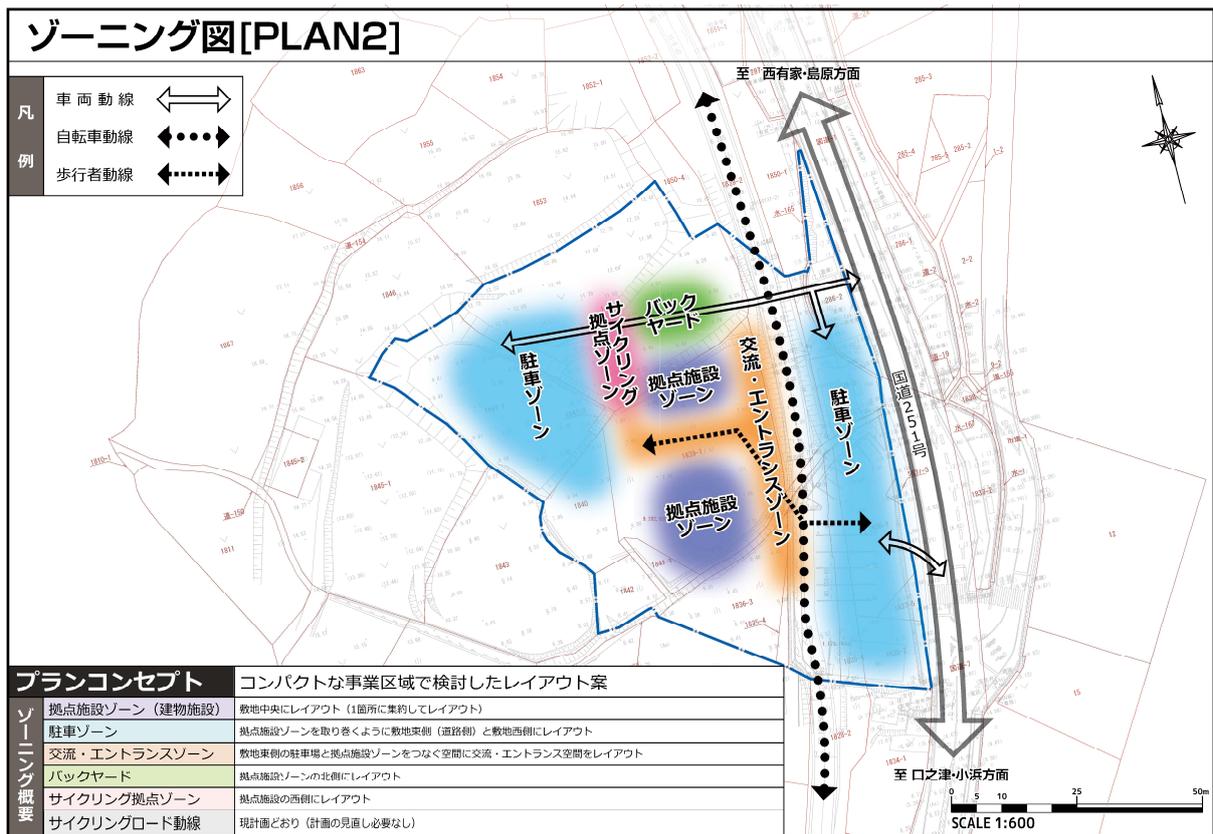
プラン1

- 敷地内の動線の交差（利用者、サイクリングロード、事業者）が少ない。
- 各ゾーンが整理・分離されてレイアウトされているが、動線の交差が少なく、各ゾーンのつながりが損なわれていない。
- 駐車場確保台数が最も少ない。
- サイクリングロードの計画を見直す必要がある。
- 拠点施設ゾーンが道路から離れた位置にある（視認されにくい）。



プラン2

- ・ 事業区域が最もコンパクトに整理されており、事業費の抑制が期待できる。
- ・ 隣接する道路（国道251号）やサイクリングロードから拠点施設までの距離が近い（視認されやすい）
- ・ サイクリングロードの計画に影響を与えない。（計画を見直す必要がない）
- ・ 敷地内の動線の交差（利用者、サイクリングロード、事業者）が多い。
- ・ 拠点施設が敷地中央にレイアウトされていることで、各ゾーンが分断されている。（駐車場が2箇所になっている、サイクリングロードとサイクリング拠点が離れている、バックヤードと利用者動線交差するなど）



プラン3

- ・ 駐車場台数を最も多く確保できる。
- ・ サイクリングロードの計画に影響を与えない。（計画を見直す必要がない）
- ・ 建物施設が分棟となっており、機能を分けた施設運営・管理が他の案（1棟集約型）に比べて容易に行えることが期待できる。
- ・ 敷地内の動線の交差（利用者、サイクリングロード、事業者）が多い。
- ・ 拠点施設ゾーンが道路から離れた位置にある。（視認されにくい）

